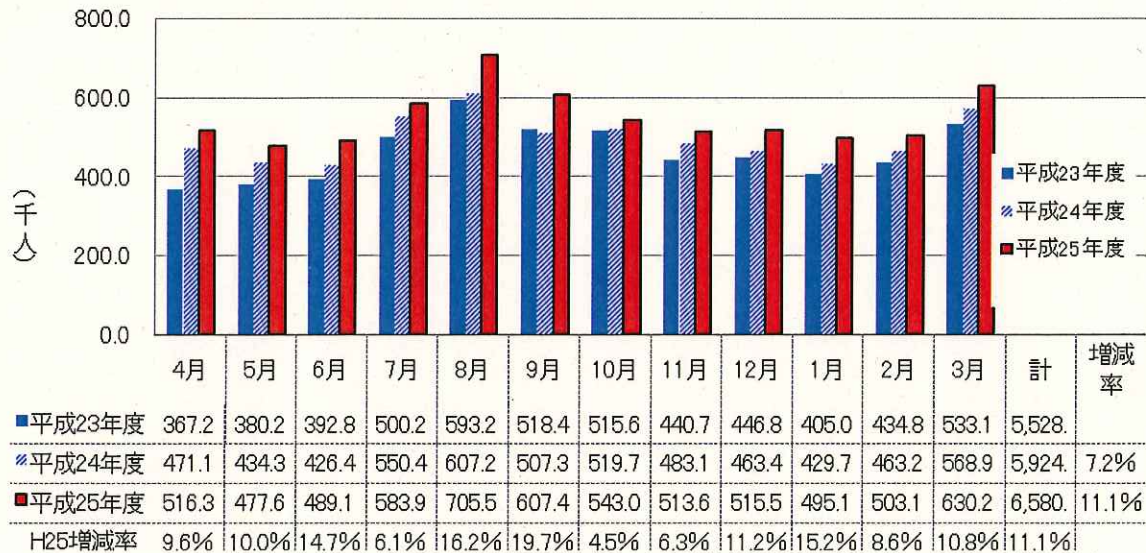


平成 25 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 26 年 4 月発表

平成 25 年度の観光客数は、**658 万 300 人**で過去最高
対前年度 (H24) 比 +65 万 5,600 人、+11.1%

■月別入域観光客数の推移 (平成 23 年度～平成 25 年度)



■平成 25 年度の概況 (総括)

平成 25 年度の入域観光客数は 658 万 300 人で、対前年比 65 万 5,600 人増加、率にして 11.1%の増加となり、これまでの過去最高であった平成 20 年度の 593 万 4,300 人を大きく上回る観光客数を記録した。

前年度と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- ① 景況感の上向きによる国内旅行需要の拡大
- ② 円安による国内客の国内旅行需要へのシフト及び外国客の訪日旅行需要の拡大
- ③ 南ぬ島石垣空港の開港
- ④ 国内・海外航空路線の拡充
- ⑤ 官民一体となったプロモーション活動
- ⑥ 沖縄本島への台風接近の減

■平成 26 年度の見通し

景気回復基調にあることに加え、円安も継続すると予想されており、国内旅行市場は活況を維持するとみられる。国内では、東京ディズニーリゾートなど一部前年からの人気が続く方面はあるが、伊丹-那覇路線の拡充、福岡-石垣路線の運航期間拡大など、航空路線の拡充が計画されていることから、沖縄への旅行需要は継続するとみられる。

外国客については、那覇空港の新国際線ターミナルビル及び那覇港の旅客ターミナル供用開始などハード面の整備に加え、台湾や香港の航空路線が拡充されたことや、クルーズ船の寄港回数の増が予定されていることから、26 年度も安定的に増加するものと見込まれる。

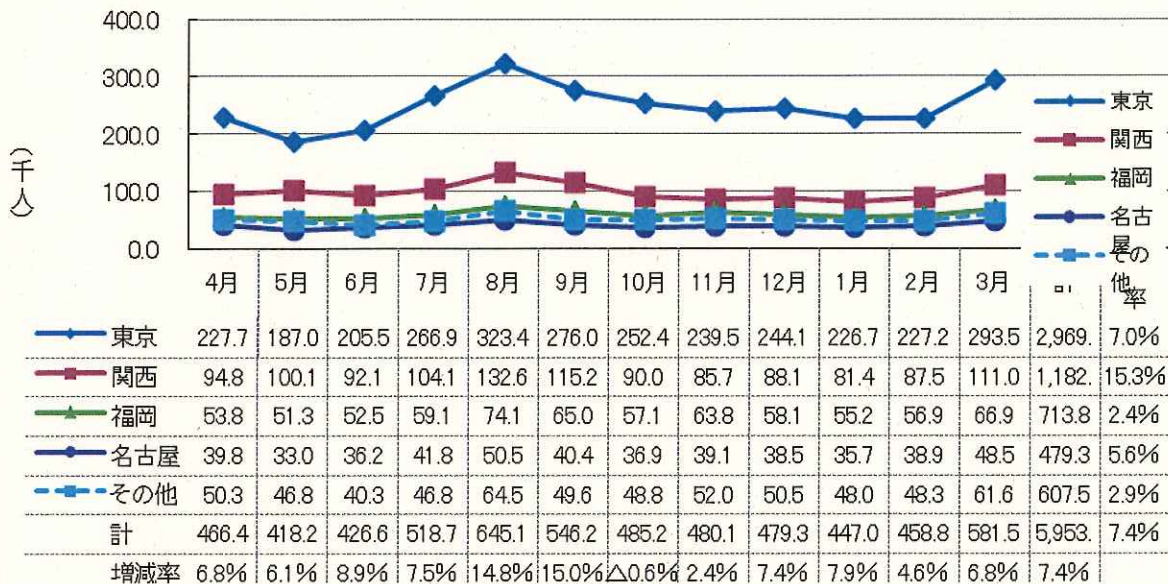
また、6月の「Diving & Resort Travel EXPO 沖縄」や、8月の世界空手道連盟プレミアリーグなどのイベントの開催が国内外客の誘客につながるものと期待している。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成 25 年度の国内客は、595 万 3,100 人で、前年比で 41 万 900 人増、7.4%の増となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 19 年度の 570 万 3,500 人。

■平成 25 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

円安に伴い、国内旅行市場は割高感のある海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしたことに加え、景況感が上向いたことが旅行需要増に拍車をかけた。また、平成 24 年度と比べて3連休が2回多く（6回→8回、GW・年末年始除く）、旅行意欲にプラスに働いたとみられる。これらの動向を背景に、国内LCCの沖縄路線就航（成田、関西）による誘客効果が継続されたこと、3月の南ぬ島石垣空港開港により石垣島発着の航空路線が拡充したことが入込増の大きな要因と考えられる。

【方面別の動向】

- 東京方面** 各キャリアの路線拡充により、年間を通して増加。南ぬ島石垣空港の開港効果で、羽田-石垣路線の提供座席数が倍増し、石垣島及び周辺離島への入込も増加した。
- 関西方面** ジェットスター・ジャパン及びピーチ・アビエーションの路線就航の影響を大きく受けた上、利便性のよい伊丹-那覇路線も座席数が増え、入込が大幅に増加した。
- 福岡方面** 福岡-那覇路線の一部機材小型化等により提供座席数が増えず、他方面への旅行需要に押され、微増となった。
- 名古屋方面** 中部-石垣路線が通年運航となり、提供座席数が大幅に増加。その影響で石垣島及び周辺離島への旅行が人気であった。

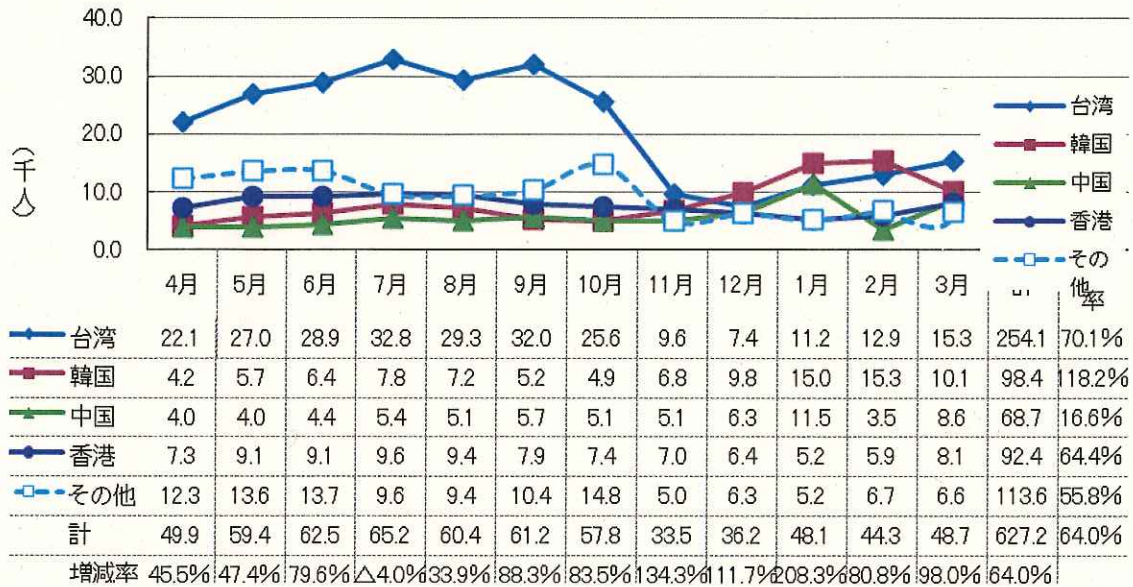
外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成 25 年度の外国客は、62 万 7,200 人で、前年比で 24 万 4,700 人増、64.0%の増となり、国内客同様に過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 24 年度の 38 万 2,500 人。

なお、クルーズ船の乗務員等を除いた外国客は、54 万 4,900 人であった。

■平成 25 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

円安に伴い、割安感のある訪日旅行需要が拡大したことに加え、航空路線が拡充したことが入込の大きな要因と考えられる。台湾、韓国、香港は安定して増加、中国本土についても、路線の再開やクルーズ船寄港により徐々に回復しており、いずれも過去最高の入込となった。

また、ビザ免除国のシンガポールに加え、ASEAN諸国へのビザ発給緩和を背景に、タイ、マレーシアからの入込も増えつつある。

【国籍別の動向】

台湾 夏期は、台北-那覇、台北-石垣路線の拡充により、空路客を中心に増加。冬期は夏期の好調さからの落ち込みが目立つものの、全体としては過去最高の 25.4 万人の入込を記録。

韓国 ソウル-那覇路線の拡充、釜山-那覇路線の定期便就航したことに加え、キャリアの競合により航空運賃やツアー価格が低下し、旅行需要が増加。夏期も一定の入込があった上、冬期については大幅に増加。

中国本土 北京-那覇路線の再開、上海-那覇路線の新規キャリア就航、クルーズ船寄港により、徐々に回復しており、前年度を上回った。空路での入込は安定している。

香港 訪日旅行需要が旺盛で、年間を通して入込が増加し、冬期も夏期と同じ機材が利用されたため例年より落ち込みが小幅であった。

平成25年（2013）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、51万6,300人
対前年（H24）同月比 +4万5,200人、+9.6%
～4月では過去最高の水準～

入域状況

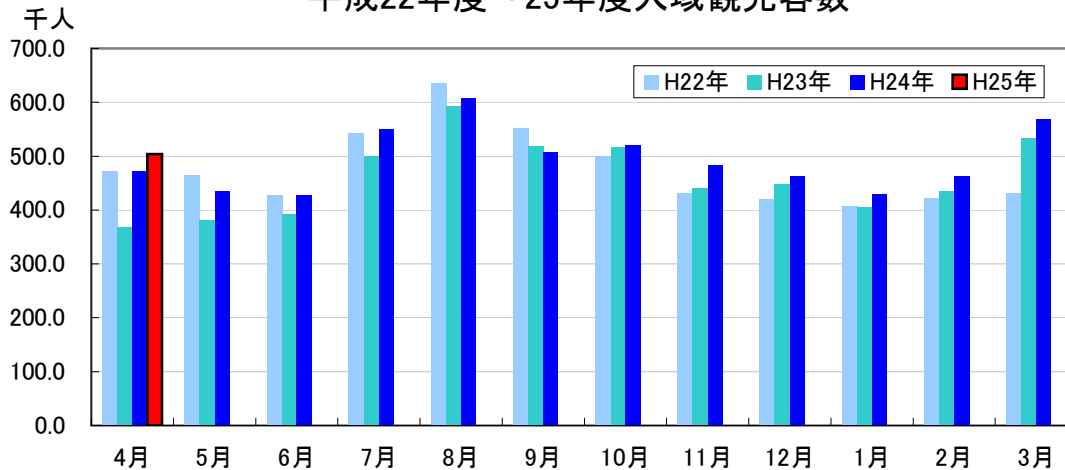
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	92.5%
外国客	37,600 人	26,500 人	+ 11,100人	+ 41.9%	7.5%
合計	504,000 人	463,300 人	+ 40,700人	+ 8.8%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	90.3%
外国客	49,900 人	34,300 人	+ 15,600人	+ 45.5%	9.7%
合計	516,300 人	471,100 人	+ 45,200人	+ 9.6%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、TDR30周年関連商品等との競合で苦戦が予想されたものの、3月からの石垣方面への客数が引き続き増加していること、GWの空路予約も前年並みを維持したことから、好調に推移した。

5月はGWを除いてエアライン、旅行商品ともに予約状況が鈍化しているが、石垣方面、宮古方面への入域は好調なことから、前年並みを維持する見込み。

外国客 入域状況

4月は航空路線が拡充、クルーズ船寄港回数が前年を上回った台湾からの観光客を中心に増加し、前年度実績を上回った。

5月も引き続き、昨年末からの航空路線就航により客数を伸ばしている韓国、新規航空路線の就航を予定している台湾からの観光客増加が予想され、好調な推移が見込まれる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	227,700 人	209,200 人	+ 18,500人	+ 8.8%	48.8%
関西方面	94,800 人	86,900 人	+ 7,900人	+ 9.1%	20.3%
福岡方面	53,800 人	53,300 人	+ 500人	+ 0.9%	11.5%
名古屋	39,800 人	37,700 人	+ 2,100人	+ 5.6%	8.5%
その他	50,300 人	49,700 人	+ 600人	+ 1.2%	10.8%
合計	466,400 人	436,800 人	+ 29,600人	+ 6.8%	100.0%

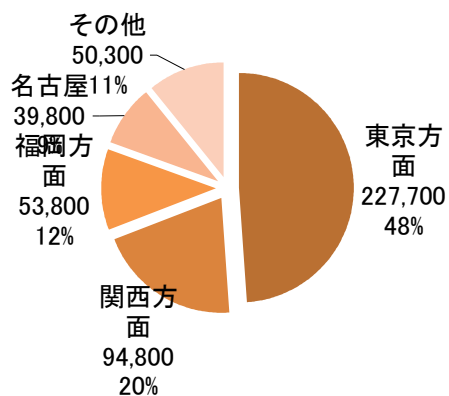
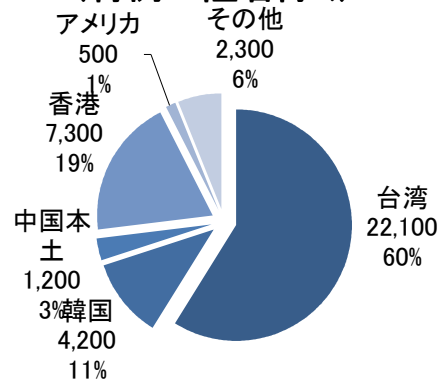
※国内海路客 2,000人を含む(関西方面:100人、鹿児島:2,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	22,100 人	22,100 人	14,200 人	+ 7,900人	55.6%	44.3%
韓国	4,200 人	4,200 人	2,100 人	+ 2,100人	100.0%	8.4%
中国本土	1,200 人	4,000 人	5,700 人	△ 1,700人	△29.8%	8.0%
香港	7,300 人	7,300 人	4,400 人	+ 2,900人	65.9%	14.6%
アメリカ	500 人	500 人	600 人	△ 100人	△16.7%	1.0%
その他	2,300 人	11,800 人	7,300 人	+ 4,500人	61.6%	23.6%
合計	37,600 人	49,900 人	34,300 人	+ 15,600人	45.5%	100.0%

国内客の地域構成

外国客の国籍構成比
(特例上陸者除く)

外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	10,500 人	10,500 人	+114.3%	42.0%	11,600 人	11,600 人	+24.7%	46.6%
韓国	4,100 人	4,100 人	+95.2%	16.4%	100 人	100 人	皆増	0.4%
中国本土	1,200 人	1,200 人	△69.2%	4.8%	0 人	2,800 人	+55.6%	11.2%
香港	6,800 人	6,800 人	+58.1%	27.2%	500 人	500 人	+400.0%	2.0%
アメリカ	500 人	500 人	△16.7%	2.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	1,900 人	1,900 人	+26.7%	7.6%	400 人	9,900 人	+70.7%	39.8%
合計	25,000 人	25,000 人	+44.5%	100.0%	12,600 人	24,900 人	+46.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

海炎祭等のイベントが好評につき、個人旅行、団体旅行を中心に好調に推移した。石垣方面及び宮古方面の旅行も好調であった。
5月下旬は現時点で鈍化しているものの、6月以降は前年並みに推移する見込みである。宮古方面、新規航空路線が就航した石垣方面については増加傾向にあり、好調な推移が期待できる。

大阪

4月は旅行会社、航空会社ともに前年並みの実績を維持したのに加え、引き続きLCCの誘客効果がみられ、好調に推移した。GWは特に神戸からの客数が増加した様子。
今後は、国内競合地の好調により苦戦を強いられる状況に変化はないが、6月以降、航空路線の新規就航や増便が相次ぐことから、旅行需要の拡大が見込まれ、好調な推移が期待できる。

福岡

競合地も含め、旅行市場が低調の様子だが、個人客を中心に増加した。
TDR関連商品の好調の反動により沖縄向けの家族旅行が伸び悩んでいるため、旅行社が価格訴求型商品を追加するなど対策を講じている。個人旅行に適した便の再開や7月からの石垣路線の再開等により回復するか注視する必要がある。

名古屋

1月以来、好調を維持しており、特に新規路線の就航による八重山地域への旅行需要が高まり、順調に推移した。また、高級リゾートの宿泊商品も好調であった様子。
今後は、GWは好調だが、以降の予約状況は鈍化しており、また、LCCの競合地への就航の影響も懸念される。

台湾

航空路線の再開や増便に加え、円安も追い風となり、クルーズ客や個人旅行客を中心に好調に推移した。
今後は大型連休はないものの、石垣路線の就航が予定されていることから石垣島への旅行需要の増加が見込まれるとともに、既存路線も増便となることから、空路、海路ともに順調に推移していくと予想される。

韓国

航空路線の減便があったものの、円安の影響で個人旅行の需要が持続し、好調に推移した。
6月の連休や7月中旬からの夏休みに加え、7月からは航空路線が増便となることから、旅行需要の拡大が見込まれ、好調な推移が期待できる。

中国本土・北京

訪日旅行は回復傾向にあるものの、沖縄については直行便が引き続き運休中、訪沖団体ツアーもなく、鈍化している。
6月は観光市場の閑散期であるが、7月中旬からの夏休み以降は家族連れ団体旅行の増加が見込まれる。ただし、日中両政府の動きが直結する地域のため引き続き注視する必要がある。

中国本土・上海

旅行会社による訪日商品PRが小規模であるためか、団体旅行は依然として動きが鈍いが、もともと落ち込みの少なかった個人旅行は回復傾向にある。
5月以降、インセンティブツアーが予定されているのに加え、個人旅行客の旅行需要も安定的な増加が見込まれる。

香港

円安や格安航空券販売の影響に加え、イースターホリデーや清明祭の休暇を利用した旅行需要が高く、個人旅行、団体旅行ともに好調に推移した。機材の大型化後も、安定した搭乗率を確保しており、客数増加に好影響を与えている。
今後も労働節、佛誕節等の休暇や6月中旬からの夏休みシーズン突入に伴い、旅行需要の伸びが予想される。

平成25年（2013）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、47万7,600人
対前年（H24）同月比 +4万3,300人、+10.0%
～3か月連続で月の過去最高を更新～

入域状況

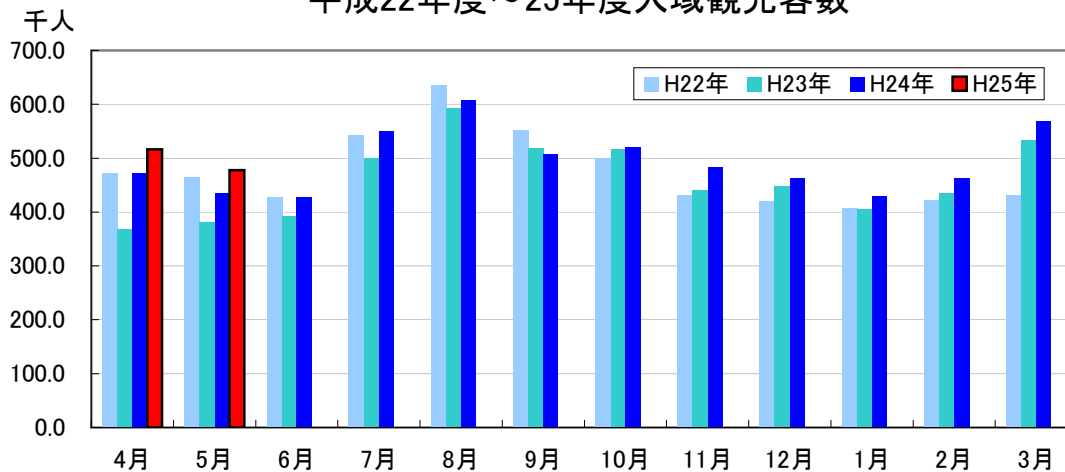
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	87.6%
外国客	59,400 人	40,300 人	+ 19,100人	+ 47.4%	12.4%
合計	477,600 人	434,300 人	+ 43,300人	+ 10.0%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	89.9%
外国客	47,000 人	29,700 人	+ 17,300人	+ 58.2%	10.1%
合計	465,200 人	423,700 人	+ 41,500人	+ 9.8%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、円安の影響により海外旅行から国内旅行へと需要がシフトしてきており、月間を通して主要方面からの入込客が増加し、好調に推移した。特に、新石垣空港開港に伴う石垣への観光客数は引き続き増加している。

6月以降も、航空便の新規就航や増便に加え、円安の影響による国内旅行への需要シフトが続くことから、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、円安の影響による訪日旅行需要が高く、航空路線が拡充された台湾及び韓国を中心に好調に推移した。

6月以降、韓国及び香港では連休や夏季休暇を利用した学生や家族向け旅行の需要が伸びるのに加え、台湾ではチャーター便の就航、既存路線の増便により安定した伸びが期待でき、順調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	187,000 人	169,000 人	+ 18,000人	+ 10.7%	44.7%
関西方面	100,100 人	93,000 人	+ 7,100人	+ 7.6%	23.9%
福岡方面	51,300 人	49,300 人	+ 2,000人	+ 4.1%	12.3%
名古屋	33,000 人	32,000 人	+ 1,000人	+ 3.1%	7.9%
その他	46,800 人	50,700 人	△ 3,900人	△ 7.7%	11.2%
合計	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	100.0%

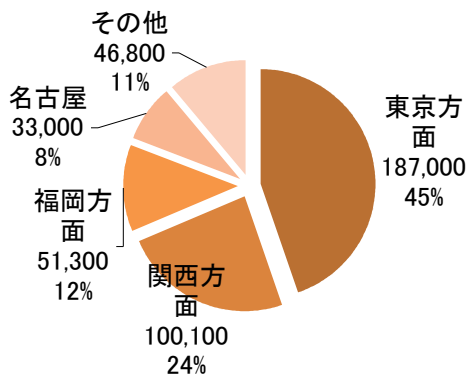
※国内海路客 4,300人を含む(関西方面:1,500人、鹿児島:2,800人)

外国客 国籍別入域状況

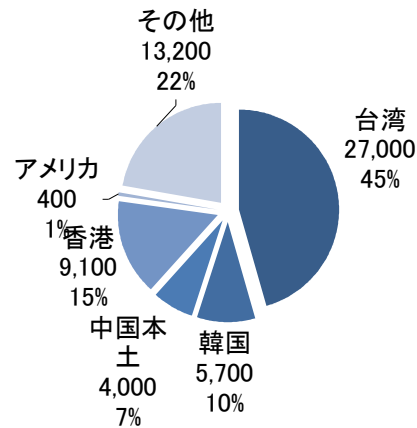
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	27,000 人	27,000 人	17,800 人	+ 9,200人	51.7%	45.5%
韓国	5,700 人	5,700 人	1,600 人	+ 4,100人	256.3%	9.6%
中国本土	1,200 人	4,000 人	6,400 人	△ 2,400人	△37.5%	6.7%
香港	9,100 人	9,100 人	4,700 人	+ 4,400人	93.6%	15.3%
アメリカ	400 人	400 人	500 人	△ 100人	△20.0%	0.7%
その他	3,600 人	13,200 人	9,300 人	+ 3,900人	41.9%	22.2%
合計	47,000 人	59,400 人	40,300 人	+ 19,100人	47.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	13,600 人	13,600 人	+106.1%	42.0%	13,400 人	13,400 人	+19.6%	49.6%
韓国	5,600 人	5,600 人	+250.0%	17.3%	100 人	100 人	皆増	0.4%
中国本土	1,200 人	1,200 人	△66.7%	3.7%	0 人	2,800 人	+0.0%	10.4%
香港	9,000 人	9,000 人	+91.5%	27.8%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	400 人	400 人	△20.0%	1.2%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,500 人	2,600 人	+100.0%	8.0%	1,100 人	10,600 人	+32.5%	39.3%
合計	32,300 人	32,400 人	+77.0%	100.0%	14,700 人	27,000 人	+22.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月はGW後半が好調であったこと、また、前年同時期には未就航であったLCCの誘客効果や石垣方面へのツアーも好調を維持したことから、前年実績を上回った。6月以降は、本島方面への旅行需要はやや鈍化しているものの、石垣方面や宮古方面への旅行は好調に推移していく見込み。また、沖縄でのメジャーアーティストのコンサートを中心に、イベントによる誘客効果も期待でき、入込客は前年より増加する見込み。

大阪

TDR関連商品が好調な上、沖縄方面への修学旅行シーズンのためパッケージ商品が伸び悩んだにもかかわらず、東京方面同様LCC就航の影響が続き、GW期間中を含め、好調に推移した。今後は、円安の影響により海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしており、7月の旅行商品の予約状況も好調なことから、前年以上の入込が予想される。

福岡

TDR関連商品を含め東日本方面への旅行商品が伸びており、GWを含み月全体で沖縄方面への旅行商品の販売が伸び悩んだ。6月以降もTDR関連商品が好調であり、沖縄への旅行は鈍化の傾向である。7月以降は石垣空港への直行便が季節運航されるため、石垣方面の旅行商品は本島に比べて好調である。

名古屋

円安の影響により海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしており、沖縄方面への旅行もやや増加し前年並みを維持した。石垣空港開港以来の中部－石垣間の直行便も好調に推移している。トップシーズンは航空会社及び旅行会社ともにPRに力を入れており、また、7月以降中部－那覇路線が増便となることから、好調を維持する見込みである。

台湾

円安の影響で訪日旅行全体が好調ななか、既存路線の増便や石垣路線の新規就航により沖縄方面の旅行も好調であった。6月から9月にかけて、旅行社の座席確保が困難なほど、週末のエアライン予約状況が好調で、航空路線の増便や機材大型化により順調に推移していくと予想される。

韓国

5月は祝日による連休及び円安の影響で個人旅行の需要が持続し、好調に推移した。ドラマ等の影響で沖縄観光の認知度が上がり、今後の旅行需要の伸びが期待できる。今後は6月から8月にかけて連休が多く、7月には学生が夏休みに入ることから、若年層及び家族向け旅行を中心に引き続き好調に推移する見込み。

中国本土・北京

訪日旅行商品の販売状況が回復傾向にあるが、沖縄方面への直行便が運休中のため、旅行商品の単価が高く、現在は個人旅行客が中心となっている。6月も状況に変化はないとみられるが、7月の直行便再開に向け、旅行社が団体旅行商品の販売を開始しており、若干の回復が期待できる。

中国本土・上海

旅行会社による訪日商品PRが小規模であるためか、団体旅行は依然として動きが鈍いが、もともと落ち込みの少なかった個人旅行は回復傾向にある。6月から中国東方航空の那覇路線が増便となったことから(週4便→週7便)、個人旅行客を中心に増加が見込まれる。

香港

5月は円安の影響に加え、休日や週末を利用した旅行需要が高く、個人旅行客を中心に好調に推移した。航空便の搭乗率も引き続き安定している。6月中旬からの夏休みシーズン突入に伴い、学生やカップルなどの個人旅行の需要が増加するのに加え、団体旅行客の伸びも期待でき、好調に推移する見込み。

平成25年（2013）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、48万9,100人
対前年（H24）同月比 +6万2,700人、+14.7%
～6月の過去最高を記録～

入域状況

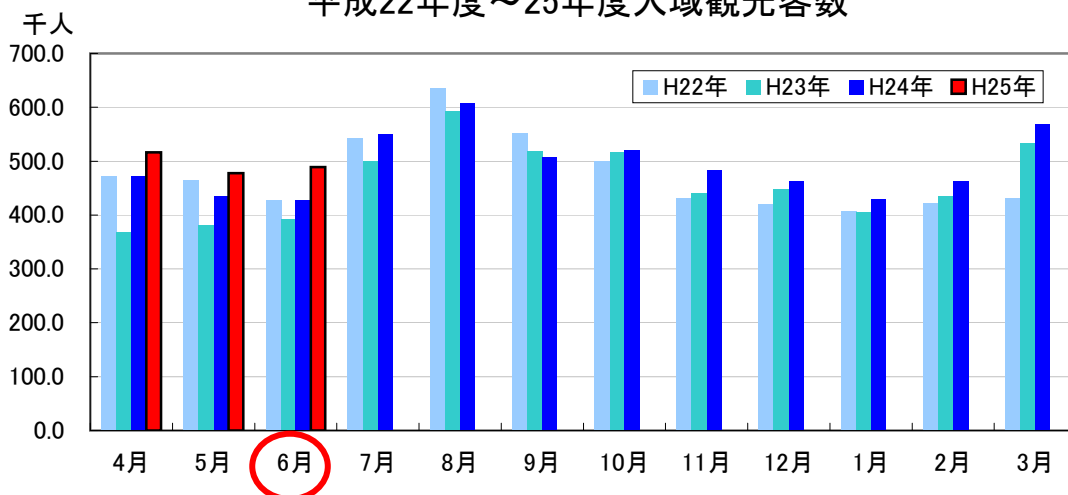
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	87.2%
外国客	62,500 人	34,800 人	+ 27,700人	+ 79.6%	12.8%
合計	489,100 人	426,400 人	+ 62,700人	+ 14.7%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	88.8%
外国客	53,700 人	30,100 人	+ 23,600人	+ 78.4%	11.2%
合計	480,300 人	421,700 人	+ 58,600人	+ 13.9%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、LCCの関西－石垣路線就航の影響もあり、関西方面を中心に好調に推移した。なお、中旬の台風4号は、船舶に一部欠航が出たものの、影響は小さかった。

7月以降は、競合地の人気が高く沖縄本島への旅行商品販売が鈍化している傾向にあるが、八重山・宮古方面の人気継続、また、季節運航路線の再開や新規就航等により前年並みに推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、航空路線の増便があった台湾を中心に、引き続き好調に推移した。また、大型クルーズ船マリナー・オブ・ザ・シーズが寄航し、欧米からの観光客が増加した。

7月以降は、前年好調だった中国からの観光客が回復途上にあるが、円安等の影響により台湾、韓国、香港の訪沖旅行需要は引き続き高いため、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	205,500 人	190,300 人	+ 15,200人	+ 8.0%	48.2%
関西方面	92,100 人	77,000 人	+ 15,100人	+ 19.6%	21.6%
福岡方面	52,500 人	50,400 人	+ 2,100人	+ 4.2%	12.3%
名古屋	36,200 人	33,500 人	+ 2,700人	+ 8.1%	8.5%
その他	40,300 人	40,400 人	△ 100人	△ 0.2%	9.4%
合計	426,600 人	391,600 人	+ 35,000人	+ 8.9%	100.0%

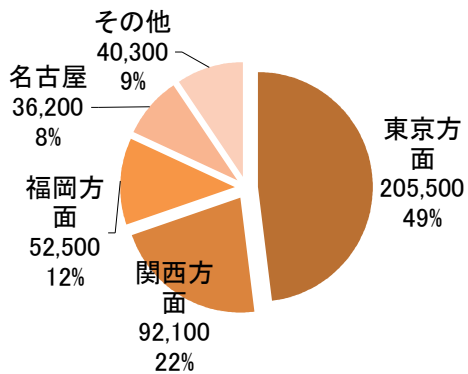
※国内海路客1,900人を含む(鹿児島:1,900人)

外国客 国籍別入域状況

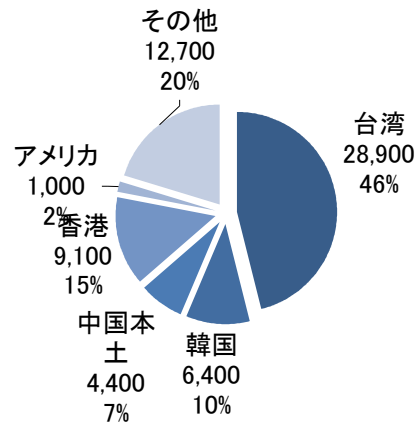
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	28,900 人	28,900 人	14,500 人	+ 14,400人	99.3%	46.2%
韓国	6,400 人	6,400 人	2,200 人	+ 4,200人	190.9%	10.2%
中国本土	2,400 人	4,400 人	5,800 人	△ 1,400人	△24.1%	7.0%
香港	9,100 人	9,100 人	6,700 人	+ 2,400人	35.8%	14.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	600 人	+ 400人	66.7%	1.6%
その他	5,900 人	12,700 人	5,000 人	+ 7,700人	154.0%	20.3%
合計	53,700 人	62,500 人	34,800 人	+ 27,700人	79.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	19,100 人	19,100 人	+130.1%	47.8%	9,800 人	9,800 人	+58.1%	43.6%
韓国	6,400 人	6,400 人	+220.0%	16.0%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	2,400 人	2,400 人	△47.8%	6.0%	0 人	2,000 人	+66.7%	8.9%
香港	9,000 人	9,000 人	+34.3%	22.5%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	500 人	500 人	△16.7%	1.3%	500 人	500 人	皆増	2.2%
その他	2,500 人	2,600 人	+73.3%	6.5%	3,400 人	10,100 人	+188.6%	44.9%
合計	39,900 人	40,000 人	+68.8%	100.0%	13,800 人	22,500 人	+102.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、メジャーアーティストのコンサート等のイベント開催に加え、八重山方面への旅行人気の継続により、好調に推移した。前年からのLCC就航も引き続き客数増加に寄与している。

7月、8月は沖縄本島への旅行商品も販売状況が鈍化傾向にあるが、八重山方面、宮古方面への旅行は好調を維持しており、前年並みに推移する見込み。

大阪

6月はピーチアビエーションの関西－石垣路線が就航した影響により、前年同月を大きく上回った。

7月は石垣路線の人気に加え、増便となる伊丹－那覇路線を利用した旅行商品の販売状況が好調で、前年同月を上回る見込み。8月の旅行商品は伸び悩んでおり、前年並みに推移する見込みである。

福岡

沖縄と同価格帯商品である東京方面、関西方面が好調なため、沖縄関連商品は伸び悩んだが、旅行社が低価格商品を販売するなど対策を講じ、順調に伸びた。web商品も好調とみられる。

7月からは福岡－石垣路線の再開に伴い関連商品が人気であるが、福岡からの直行便があるハワイやオランダへの旅行需要が高く、沖縄への旅行は低調となる見込み。

名古屋

3月から引き続き中部－石垣路線が好調を維持し、前年同月を上回った。

7月、8月は旅行社が家族旅行のパッケージ商品に注力しており、家族旅行を中心に好調に推移する見込み。現地で八重山観光セミナーや沖縄物産展での観光PR効果が9月以降に現れることを期待。

台湾

6月は連休こそないものの、既存路線の増便や機材大型化に伴い、空路客を中心に好調に推移した。

7月以降も引き続き、週末及び9月の旧盆時期の連休前後は航空座席がほぼ満席の状況であり、好調に推移していく見込み。石垣や久米島への問い合わせも増加しており、当該方面への旅行需要も高まっていると見られる。

韓国

6月は、円安の影響に加え、慰霊の日を含んだ4連休もあり好調に推移した。家族旅行も増加傾向にある一方で、民宿とレンタカーを利用する若年層の個人旅行者も増加している。

7月以降は、夏休みや連休等により増加する旅行需要に対応し、アジアナ航空が一部の便で機材を大型化することから(175席→205席)、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

直行便が連休中のため前月と変化がないが、7月の再開に向け旅行商品の販売が継続され好調の様子。

7月は直行便が再開するのに伴い団体旅行客の回復が見込めるが、好調だった前年並みには達しないと予想される。観光プロモーションもダイビングセミナーを中心に実施する予定となっており、今後のPR効果に期待。

中国本土・上海

6月から上海－那覇路線が週4便から7便へ増便となり、前年の実績には至らなかったが、着実に回復している。

7月も週7便体制が維持されることから、回復傾向の個人旅行者及び夏休みの家族旅行を中心に増加する見込みだが、前年7月に3回寄航したボージャー・オブ・ザ・シーズの寄航がないため、前年実績を大きく下回る見込み。

香港

訪日旅行需要が依然高く、沖縄方面への団体旅行、個人旅行商品の販売が好調を維持しており前年同月を上回った。

7月、8月は夏休みの家族旅行が多くなる見込み。団体旅行は既に完売し、9月以降の旅行商品の販売に取り組んでいる旅行会社もあることから、今後も好調に推移していく見込み。

平成25年（2013）7月 入域観光客数概況

7月の観光客数は、58万3,900人
対前年（H24）同月比 +3万3,500人、+6.1%
～7月の過去最高を更新～

入域状況

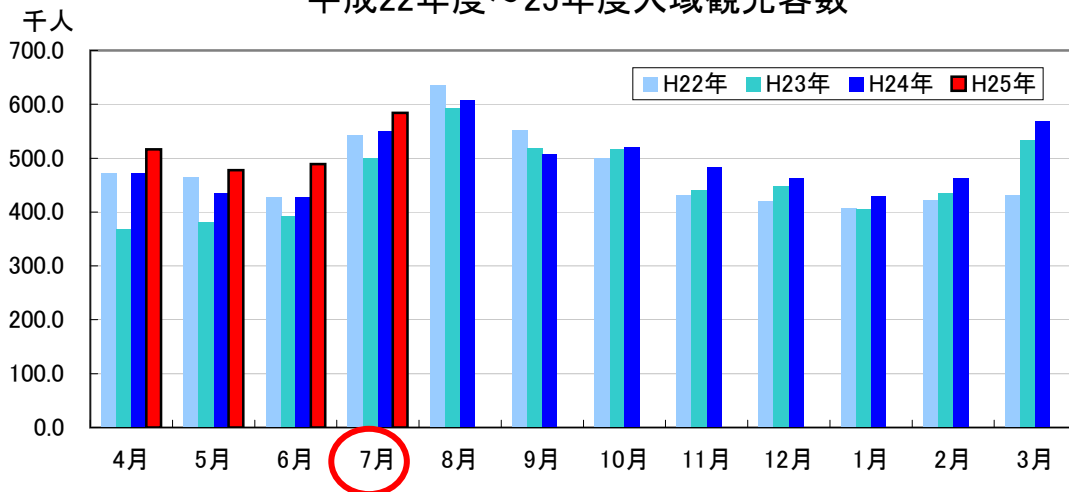
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	88.8%
外国客	65,200 人	67,900 人	△ 2,700人	△ 4.0%	11.2%
合計	583,900 人	550,400 人	+ 33,500人	+ 6.1%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	90.2%
外国客	56,400 人	53,600 人	+ 2,800人	+ 5.2%	9.8%
合計	575,100 人	536,100 人	+ 39,000人	+ 7.3%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、新規航空路線の就航や季節運航路線の再開により、関西方面を中心に好調に推移した。特に、八重山方面への旅行需要は引き続き高く、全体を牽引している。台風7号の影響により石垣及び宮古路線に欠航があったが、上旬及び中旬の好調さがカバーした。

8月は、夏場の沖縄への旅行需要は安定しており、週末の台風襲来が相次いだ昨年8月より、上回る見込み。

外国客 入域状況

7月は、昨年好調であった中国からの大型クルーズ船寄港がなかった反動から、前年を下回った。ただ、昨年比で航空路線の拡充された台湾、韓国は増加しており、北京路線が再開された中国の旅行需要も徐々に回復傾向にある。

8月以降、学生の夏休みに加え連休も続く台湾、韓国を中心に増加が見込まれること、また、中国市場もトップシーズンのため旅行需要が高まっていることから、堅調な推移が見込まれる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	266,900 人	251,400 人	+ 15,500人	+ 6.2%	51.5%
関西方面	104,100 人	88,300 人	+ 15,800人	+ 17.9%	20.1%
福岡方面	59,100 人	57,300 人	+ 1,800人	+ 3.1%	11.4%
名古屋	41,800 人	38,200 人	+ 3,600人	+ 9.4%	8.1%
その他	46,800 人	47,300 人	△ 500人	△ 1.1%	9.0%
合計	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	100.0%

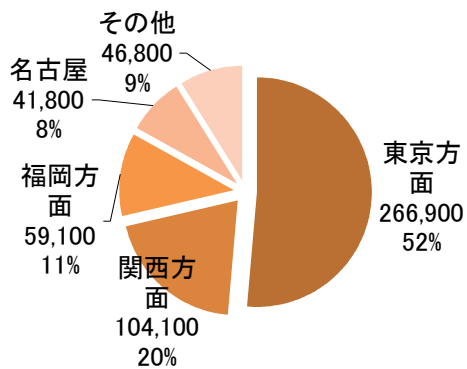
※国内海路客 2,100人を含む(関西:100人、鹿児島:2,000人)

外国客 国籍別入域状況

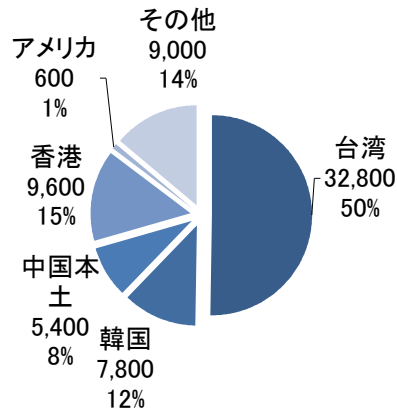
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	32,800 人	32,800 人	23,200 人	+ 9,600人	41.4%	50.3%
韓国	7,800 人	7,800 人	2,500 人	+ 5,300人	212.0%	12.0%
中国本土	3,400 人	5,400 人	18,700 人	△ 13,300人	△71.1%	8.3%
香港	9,600 人	9,600 人	8,200 人	+ 1,400人	17.1%	14.7%
アメリカ	600 人	600 人	600 人	△ 0人	0.0%	0.9%
その他	2,200 人	9,000 人	14,700 人	△ 5,700人	△38.8%	13.8%
合計	56,400 人	65,200 人	67,900 人	△ 2,700人	△4.0%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	20,400 人	20,400 人	+102.0%	46.5%	12,400 人	12,400 人	△5.3%	58.2%
韓国	7,800 人	7,800 人	+212.0%	17.8%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,400 人	3,400 人	△37.0%	7.7%	0 人	2,000 人	△85.0%	9.4%
香港	9,500 人	9,500 人	+20.3%	21.6%	100 人	100 人	△66.7%	0.5%
アメリカ	600 人	600 人	+20.0%	1.4%	0 人	0 人	皆減	0.0%
その他	2,200 人	2,200 人	+4.8%	5.0%	0 人	6,800 人	△46.0%	31.9%
合計	43,900 人	43,900 人	+54.0%	100.0%	12,500 人	21,300 人	△45.9%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、国内の旅行動向が全体として好調であり、沖縄方面への旅行需要も高まった。特に八重山方面への旅行は、航空路線の拡充もあり大きく増加した。
8月は、web商品や安価なパッケージ商品を中心に前年並みの売れ行きとなっており、台風の影響は懸念されるものの、現状では盆休み期間中の航空便の予約が前年を超え、臨時便も予定されていることから、堅調な推移が見込まれる。

大阪

7月は、関西方面からの那覇及び石垣路線の拡充が大きく影響し、前年を大きく上回った。特に八重山方面の旅行人気が、新石垣空港の開港以来続いている。
8月は、例年より旅行商品の販売状況が芳しくないが、旅行直前で予約が入る傾向もあり、安価な商品を中心に追い上げが期待できる。9月は、学生旅行を中心に堅調に推移する見込み。

福岡

7月は、旅行商品の販売は前年並みだが、web商品利用及びビジネス客が多いためか前年に比べて微増となった。
8月は、夏終盤の旅行商品の販売状況が改善していること、また、7月から運航を再開した福岡－石垣路線も前年以上の伸びを記録し、10月の運航終了まで八重山方面への旅行は好調な推移が見込まれることから、前年並みの実績は期待できる。

名古屋

7月は、学生の個人旅行を中心に好調に推移した。中部－石垣路線も引き続き好調である。
8月は、盆休み期間中の航空路線の予約状況も昨年を上回っており、観光キャンペーン対象の家族旅行及び学生旅行を中心に好調な推移が見込まれる。製造業が多い地域のため、景気回復の影響を受けやすく、今後、旅行需要への良い影響が期待できる。

台湾

7月は、昨年比で拡充された航空路線の影響もあり、空路客が大幅に増加した。
8月以降、航空路線、クルーズともに予約は好調で、特に9月18日からの5連休は、沖縄旅行商品が完売状態である。10月までは好調を維持する見込み。

韓国

7月は、アジアナ航空の機材大型化及びジンエアーのデイリー運航開始に加え、中旬からの夏休みにより旅行需要が高まり、個人客を中心に好調に推移した。
8月は、連休及び学生の夏休みに伴い旅行需要が高く、航空路線の予約状況も好調なため、前年を上回る見込み。また、9月には那覇及び宮古へのチャーター便も予定されており、好調に推移する見込みである。

中国本土・北京

7月は、昨年10月から運休していた中国国際航空が運航を再開した。搭乗率は8割近くで好調な様子である。メディアなどを対象にした現地訪問ツアーや天津外国語大の教育旅行が行われ、今後のPR効果に期待が持てる。
8月は、訪日旅行需要が回復傾向にあり、沖縄旅行商品の販売状況も好調で、昨年並みは望めないが、徐々に回復していく見込み。

中国本土・上海

7月は、昨年大型クルーズ船寄港の反動により、入域観光客数は昨年比で大幅減となったが、航空路線を利用した個人客は回復傾向にある。
8月は、北京同様、訪日旅行需要が回復傾向にあり、上海－那覇路線の予約状況も現時点で悪くないため、沖縄への旅行も順調に回復する見込み。

香港

7月も円安が牽引して訪日旅行需要が依然高く、沖縄旅行商品についても完売状態であった。
8月、9月は、例年安定した旅行需要があり、引き続き好調に推移する見込みである。10月については、夏場に比べて旅行需要が減退するものの、昨年同時期と比較し円安傾向が続いているため、旅行社の団体旅行商品の販売強化に期待したい。

平成25年（2013）8月 入域観光客数概況

8月の観光客数は、70万5,500人
対前年（H24）同月比 +9万8,300人、+16.2%
～単月で初の70万人超え～

入域状況

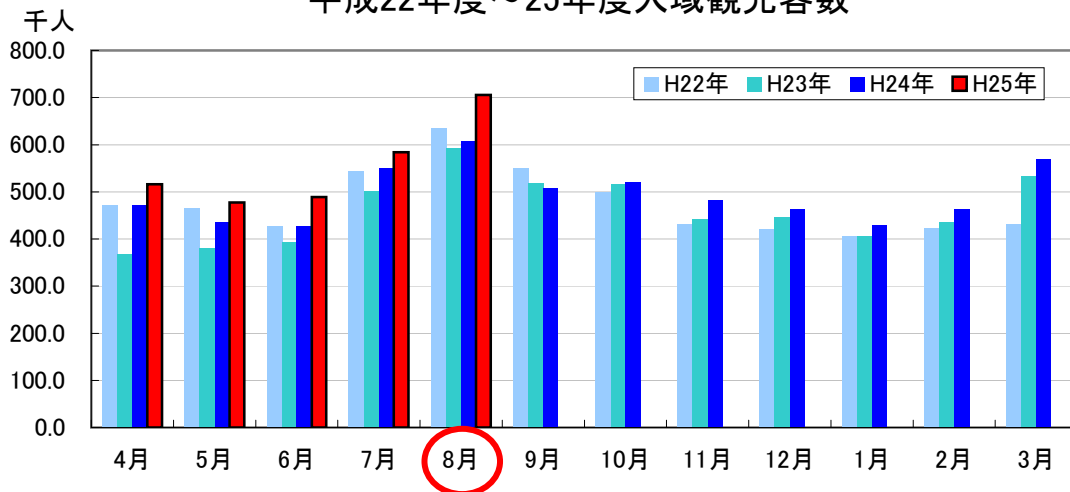
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	91.4%
外国客	60,400 人	45,100 人	+ 15,300人	+ 33.9%	8.6%
合計	705,500 人	607,200 人	+ 98,300人	+ 16.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	92.4%
外国客	53,000 人	38,300 人	+ 14,700人	+ 38.4%	7.6%
合計	698,100 人	600,400 人	+ 97,700人	+ 16.3%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、トップシーズンであることに加え、個人消費回復や雇用情勢改善など景況感が上向いていることから、入域客数は前年を大幅に上回った。台風は接近したものの、前年に比べ欠航等が少なく、旅行者の動向に影響を与えるほどではなかった。

9月は、引き続き台風襲来の懸念はあるが、一部地域を除き旅行商品の販売状況が概ね良く、入域客数は前年を上回る見込み。

外国客 入域状況

8月は、台風の影響によりクルーズ船寄航が一部キャンセルとなったものの、昨年比で航空路線が拡充された台湾、韓国を中心に好調に推移した。東南アジア方面からの入域も増加しており、査証緩和の影響が出始めたと思われる。

9月から10月は、重点市場においては連休が続くため引き続き旅行需要が高く、特に台湾、韓国を中心に好調に推移する見込みである。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	323,400 人	290,700 人	+ 32,700人	+ 11.2%	50.1%
関西方面	132,600 人	104,600 人	+ 28,000人	+ 26.8%	20.6%
福岡方面	74,100 人	69,100 人	+ 5,000人	+ 7.2%	11.5%
名古屋	50,500 人	41,700 人	+ 8,800人	+ 21.1%	7.8%
その他	64,500 人	56,000 人	+ 8,500人	+ 15.2%	10.0%
合計	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	100.0%

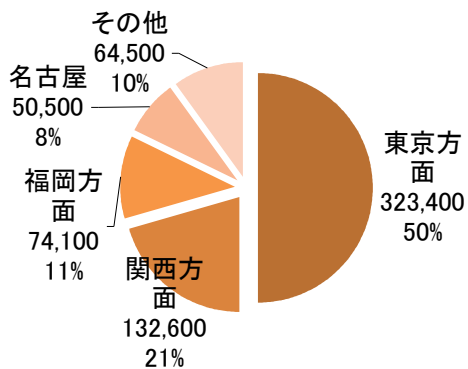
※国内海路客 4,500人を含む(関東:100人、関西:100人、鹿児島:4,300人)

外国客 国籍別入域状況

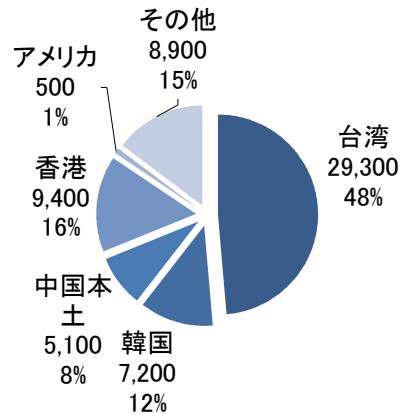
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	29,300 人	29,300 人	17,300 人	+ 12,000人	+69.4%	48.5%
韓国	7,200 人	7,200 人	2,400 人	+ 4,800人	+200.0%	11.9%
中国本土	3,500 人	5,100 人	11,000 人	△ 5,900人	△53.6%	8.4%
香港	9,400 人	9,400 人	7,300 人	+ 2,100人	+28.8%	15.6%
アメリカ	500 人	500 人	400 人	+ 100人	+25.0%	0.8%
その他	3,100 人	8,900 人	6,700 人	+ 2,200人	+32.8%	14.7%
合計	53,000 人	60,400 人	45,100 人	+ 15,300人	+33.9%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	17,800 人	17,800 人	+97.8%	43.1%	11,500 人	11,500 人	+38.6%	60.2%
韓国	7,200 人	7,200 人	+200.0%	17.4%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,500 人	3,500 人	△36.4%	8.5%	0 人	1,600 人	△70.9%	8.4%
香港	9,200 人	9,200 人	+26.0%	22.3%	200 人	200 人	皆増	1.0%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.2%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,100 人	3,100 人	+72.2%	7.5%	0 人	5,800 人	+18.4%	30.4%
合計	41,300 人	41,300 人	+56.4%	100.0%	11,700 人	19,100 人	+2.1%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、家族旅行を中心に好調に推移した。八重山方面への旅行需要が引き続き好調で、全体を牽引したとみられる。離島への旅行は、個人旅行客が中心となっている模様。9月は、低価格商品が売り上げを伸ばしており、連休だけでなく平日も入込が期待できる見込み。10月は、東京方面からの修学旅行、MICEの実施も増加することから、団体客を中心に好調な推移が期待できる。

大阪

8月は、前年に比べ台風の影響も少なく、また、増便した伊丹-那覇路線の利用客数が大きく伸び、前年を大きく上回った。9月以降は、LCC利用の旅行商品が学生に人気で販売状況も良いが、全体としては旅行商品の販売状況が伸び悩んでおり、前年並みに推移する見込み。

福岡

8月は、旅行社がラストサマー商品の受注強化を図っており、販売も好調だったことから、前年を上回った。9月は、連休があるにも関わらず旅行商品の販売が鈍化しているが、直前での申し込みも多いため、前年並みになる見込み。10月は九州ブロックPTA大会開催に伴う先行商品の予約が好調で、前年以上の入込が期待できる。

名古屋

8月は、回復基調にある景況感に支えられ引き続き旅行需要が高く、家族旅行を中心に好調に推移した。9月は、連休期間中を中心に好調に推移する見込みである。また、石垣直行便の人気も高い様子。10月まで沖縄観光をPRする機会のあるイベントが相次ぎ、今後の旅行需要喚起が期待できる。

台湾

8月は、北海道をはじめ訪日旅行需要が高く、沖縄も変わらず人気が高く、台風の影響で一部クルーズ船寄航がキャンセルになったが、全体として好調に推移した。9月の中秋節の連休中(9/18-9/23頃)は、台北、台中、高雄から那覇へのチャーター便が予定されているのに加え、10月末までは航空路線の予約状況も好調なことから、引き続き観光客の入込は増加する見込み。

韓国

8月は、独立記念日の連休に加え、航空路線が拡充した影響により、家族旅行を中心に好調に推移した。個人旅行客のレンタカーを利用したパック旅行も増加傾向で、アクティビティ商品も人気があった模様。9月は、中旬の連休中に旅行需要が集中しているが、那覇及び宮古のチャーター便も予定されており、前年は上回る見込み。

中国本土・北京

8月は、航空路線を利用する客数は、尖閣関連の影響がなかった平成23年の同時期との比較で増加しており、沖縄旅行需要も回復傾向にあるとみられる。9月以降は、全体として旅行需要自体が落ち込むが、航空路線が再開されているため、昨年以上の入込は期待できる。ただ、10月の国慶節連休中における新規チャーター便就航は困難とみられる。

中国本土・上海

8月は、旅行シーズンのため旅行需要が高く、北京同様に航空路線を利用する観光客は回復傾向にあるとみられる。9月から10月にかけて、航空路線の予約状況は7割程度となっているが、国慶節期間中は機材大型化及び増便を予定しており、昨年以上の入込が期待できる。

香港

8月は、夏休みの旅行需要が牽引し、航空路線の搭乗率も9割を超え、引き続き好調に推移した。9月以降、旅行需要が減退し、さらに10月以降は、紅葉や降雪のある地域への旅行需要が高まり、沖縄旅行の優先度は低くなるため、旅行商品の販売は鈍化するとみられる。

平成25年（2013）9月 入域観光客数概況

9月の観光客数は、60万7,400人
対前年（H24）同月比 +10万100人、+19.7%
～台風影響少なく12か月連続で前年同月上回る～

入域状況

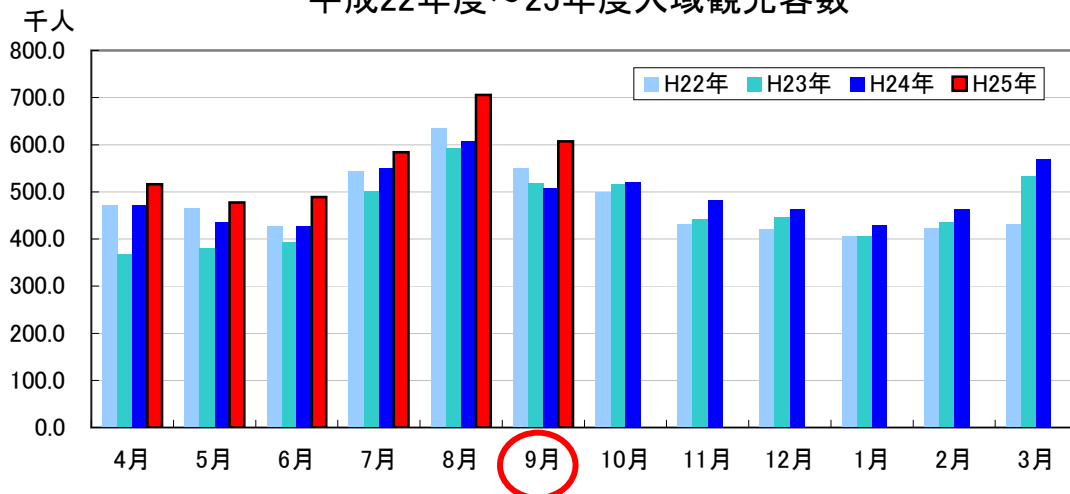
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	89.9%
外国客	61,200 人	32,500 人	+ 28,700人	+ 88.3%	10.1%
合計	607,400 人	507,300 人	+ 100,100人	+ 19.7%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	91.5%
外国客	51,000 人	27,000 人	+ 24,000人	+ 88.9%	8.5%
合計	597,200 人	501,800 人	+ 95,400人	+ 19.0%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、前年は連休中・週末に2回の台風が襲来したが、今年は台風による影響がほとんどなく、連休が2度あったこともあり、前年以上の入込となった。

10月は、月初めの台風により音楽イベントの中止や旅行キャンセルが出るなど若干の影響があり、今後も関東地方への大型台風の襲来が懸念されるが、日本国内の旅行市場の好調さを背景に、官民上げてのプロモーション効果もあり沖縄への入込は今後も好調な推移が期待できる。

外国客 入域状況

9月は、重点市場を中心に好調な訪日旅行需要に支えられ、国内LCCの台湾路線就航、また、中旬の連休中（中秋節、チュソク）に台湾・韓国からのチャーター便による送客が好調で、前年を上回る結果となった。

10月は、依然として円安による訪日旅行需要の高まりに加え、台湾・韓国・タイからのインセンティブツアーも増加し、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	276,000 人	247,700 人	+ 28,300人	+ 11.4%	50.5%
関西方面	115,200 人	94,300 人	+ 20,900人	+ 22.2%	21.1%
福岡方面	65,000 人	56,100 人	+ 8,900人	+ 15.9%	11.9%
名古屋	40,400 人	33,800 人	+ 6,600人	+ 19.5%	7.4%
その他	49,600 人	42,900 人	+ 6,700人	+ 15.6%	9.1%
合計	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	100.0%

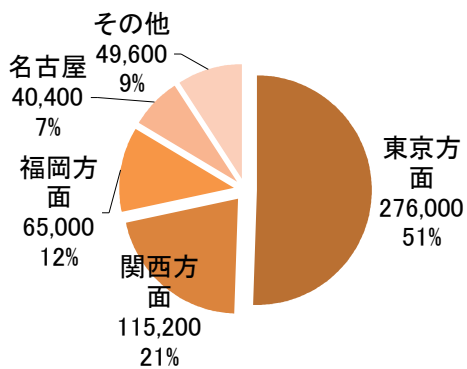
※国内海路客 1,900人を含む(関西:100人、鹿児島:1,800人)

外国客 国籍別入域状況

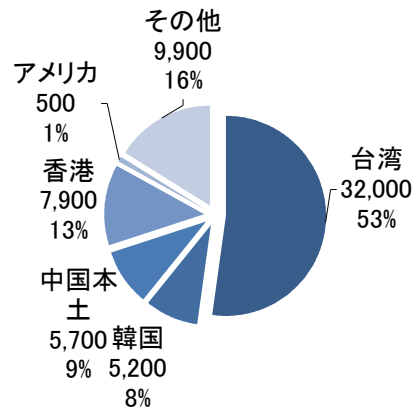
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	32,000 人	32,000 人	15,500 人	+ 16,500人	+106.5%	52.3%
韓国	5,200 人	5,200 人	1,900 人	+ 3,300人	+173.7%	8.5%
中国本土	3,400 人	5,700 人	4,200 人	+ 1,500人	+35.7%	9.3%
香港	7,900 人	7,900 人	5,400 人	+ 2,500人	+46.3%	12.9%
アメリカ	500 人	500 人	400 人	+ 100人	+25.0%	0.8%
その他	2,000 人	9,900 人	5,100 人	+ 4,800人	+94.1%	16.2%
合計	51,000 人	61,200 人	32,500 人	+ 28,700人	+88.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	19,200 人	19,200 人	+140.0%	50.5%	12,800 人	12,800 人	+70.7%	55.2%
韓国	5,200 人	5,200 人	+173.7%	13.7%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,400 人	3,400 人	+25.9%	8.9%	0 人	2,300 人	+53.3%	9.9%
香港	7,800 人	7,800 人	+44.4%	20.5%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.3%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	1,900 人	1,900 人	+72.7%	5.0%	100 人	8,000 人	+100.0%	34.5%
合計	38,000 人	38,000 人	+94.9%	100.0%	13,000 人	23,200 人	+78.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、比較的安価なパッケージ商品が売り上げを伸ばし、学生など若い世代の旅行を中心に好調に推移した。
10月は、一週目に襲来した2つの台風によりイベントが中止となり、旅行キャンセルなど影響が出た。しかし、旅行商品の販売状況は良いため、中旬以降に好調であれば前年並みとなる見込み。11月及び日並びの良い年末年始も現時点では好調の様子。

大阪

7月以降の伊丹-那覇路線の増便の影響により、関西空港・神戸空港の利用客が伸び悩んでいるが、LCC路線の利用が多く、9月は全体として好調に推移した。
10月以降の航空便予約や旅行商品の販売状況も現時点では好調で、Web購入が多いLCC利用者を含めると前年以上となる見込み。

福岡

9月は、3連休のあった中旬・下旬に入込が増加し、好調に推移した。夏期運航の福岡-石垣路線については、他地域からの直行便の利用状況と比べると低調であった。
10月は九州ブロックPTA大会開催により旅行商品の販売状況は好調、前年以上に推移する見込み。11月以降、福岡-那覇路線の機材が小型化されるため、送客に影響が出る懸念される。

名古屋

9月は、東海地方～関東地方を通過した台風の影響により航空便に欠航が出たものの、3連休のあった中旬・下旬に入込が増加し、前年を上回る結果となった。石垣直行便が引き続き好調で、八重山地域の離島周遊ツアーの人気の高い。
10月は、台風の影響は懸念されるものの、予約ベースでは依然として好調で前年以上となる見込み。

台湾

9月は、夏場に比べ落ち着きをみせているが、中秋節の連休中にチャーター便が就航、また、国内LCCのピーチ・アビエーションが就航し便数が拡大しており、訪沖旅行はインセンティブツアー(企業の報奨旅行など)を中心に好調に推移した。
10月は、石垣路線が運休となり八重山への送客が落ち着くが、本島への入込は引き続き好調を維持する見込み。

韓国

9月は、日韓関係及び安全上の懸念により訪日旅行需要が鈍化傾向にあったが、チュソク(韓国の旧盆)の連休中は那覇及び宮古へのチャーター便が好調で、前年比で増加した。
10月も前半の連休は2度の台風襲来の影響を受けた可能性があるが、インセンティブツアーの増加により前年並みとなる見込み。

中国本土・北京

9月は、夏休みが終了し旅行市場が落ち着いているが、訪沖旅行市場は前年9月以来の不調から徐々に回復傾向にあり、1年ぶりに前年同月の結果を上回った。
10月以降、依然として海南航空の北京路線の再開の目処がたたず、国慶節連休中の新規チャーター便の就航もないが、今後本格化する沖縄観光プロモーションの効果を期待したい。

中国本土・上海

9月は、北京と同様に旅行市場が落ち着く時期にあるが、前年以上の入込となった。
10月は、前年の不調の反動増に加え、国慶節期間中は機材大型化及び増便となるため、前年以上の入込となる見込み。また、12月には上海発の中国人向けクルーズ船寄航が決定しており、今後の旅行需要回復に明るい兆しがみえる。

香港

9月は、夏場に比べて旅行需要が落ち着きつつあるが、訪日旅行の人気の後押しされ、好調に推移した。旅行社が独自キャンペーンを実施し、積極的に需要を喚起している。
10月以降、香港エクスプレスが夏期同様の機材(284席)を利用するため、好調を維持する見込み。テレビ番組でPRした体験メニューを組み込んだ旅行商品の販売が好調。

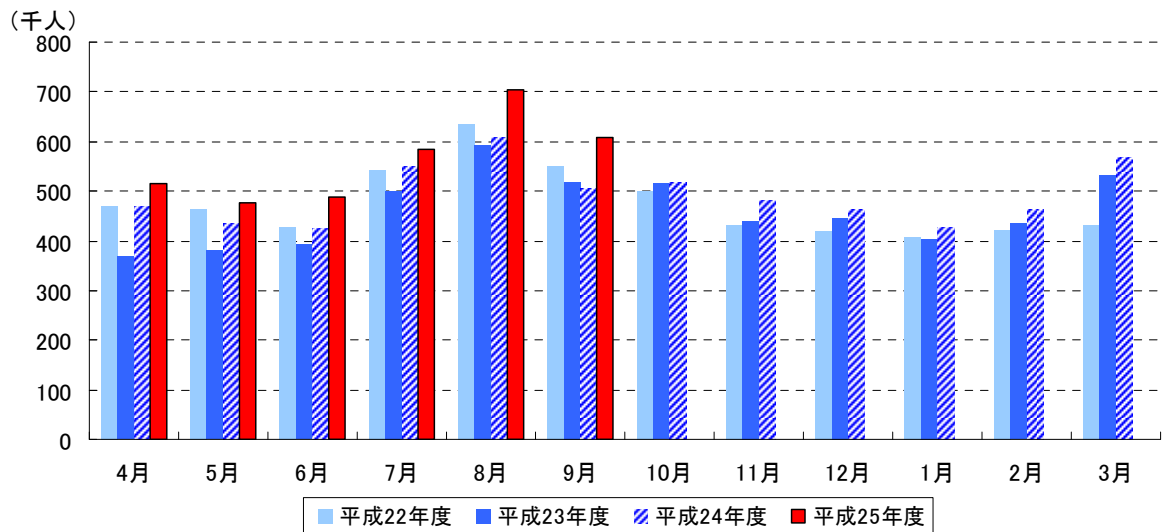
平成 25 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 25 年 10 月発表

平成 25 年度上半期は、過去最高の入域観光客数
平成 25 年度入域観光客数は、目標の 630 万人を達成する見込み

入域観光客数（国内＋外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 22 年度～平成 25 年度）



■平成 25 年度上半期入域観光客の状況（平成 24 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成25年度	516,300	477,600	489,100	583,900	705,500	607,400	3,379,800
平成24年度	471,100	434,300	426,400	550,400	607,200	507,300	2,996,700
増減数	45,200	43,300	62,700	33,500	98,300	100,100	383,100
増減率	9.6%	10.0%	14.7%	6.1%	16.2%	19.7%	12.8%

■平成 25 年度上半期の概況（総括）

平成 25 年度上半期の入域観光客数は、337 万 9,800 人となり、対前年同時期で 38 万 3,100 人増加、率にして 12.8%増となった。月別では、8 月に初めて単月で 70 万人を超える客数を記録、9 月までで 12 か月連続で対前年同月を上回り、7 か月連続で月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- 円安による旅行需要増
- 国内・海外航空路線の拡充
- 沖縄本島への台風接近の減

国内観光客についての動向

■平成 25 年度上半期国内観光客の状況（平成 24 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成25年度	466,400	418,200	426,600	518,700	645,100	546,200	3,021,200
平成24年度	436,800	394,000	391,600	482,500	562,100	474,800	2,741,800
増減数	29,600	24,200	35,000	36,200	83,000	71,400	279,400
増減率	6.8%	6.1%	8.9%	7.5%	14.8%	15.0%	10.2%

■国内観光客の概況

国内の旅行市場全体の流れとして、円安に伴い割高感のある海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしているのに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと（新石垣空港発着路線の増、LCCの那覇空港発着路線の就航）が沖縄への入込増加の要因とみられる。また、前年同時期に比べて沖縄本島への台風接近がほとんどなく、航空便欠航による旅行キャンセル等の影響が少なかった。

下半期のうち 10 月は本島及び関西～関東方面への台風接近により旅行キャンセルが見込まれるが、全国的に景況感が上向いていることから国内旅行市場は好調とみられ、路線拡充の動きはないものの、官民あがてのプロモーション活動効果により沖縄への入込は今後も好調に推移することが期待できる。

外国人観光客についての動向

■平成 25 年度上半期外国人観光客の状況（平成 24 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成25年度	49,900	59,400	62,500	65,200	60,400	61,200	358,600
平成24年度	34,300	40,300	34,800	67,900	45,100	32,500	254,900
増減数	15,600	19,100	27,700	-2,700	15,300	28,700	103,700
増減率	45.5%	47.4%	79.6%	-4.0%	33.9%	88.3%	40.7%

■外国人観光客の概況

円安により割安感のある訪日旅行需要が高まっているのに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと（台北那覇路線の増便、台北石垣路線の就航、ソウル那覇路線の増便）が沖縄への入込増加の要因とみられる。台湾・韓国などの重点市場に比べてボリュームは小さいものの、タイからの入込もインセンティブツアーを中心に増加した。

下半期は、例年冬期の訪沖旅行が多い韓国からの入込を中心に好調な推移が期待できる。また、昨年 9 月以降の路線運休等により落ち込んでいた中国からの入込については、上半期後半から徐々に回復傾向にあること、さらに上海発中国人向けクルーズ船の寄航が決定したことから、前年以上の入込が期待できる。

平成25年（2013）10月 入域観光客数概況

10月の観光客数は、54万3,000人
対前年（H24）同月比 +2万3,300人、+4.5%
～外国客数は、早くも前年度の年間実績を超える～

入域状況

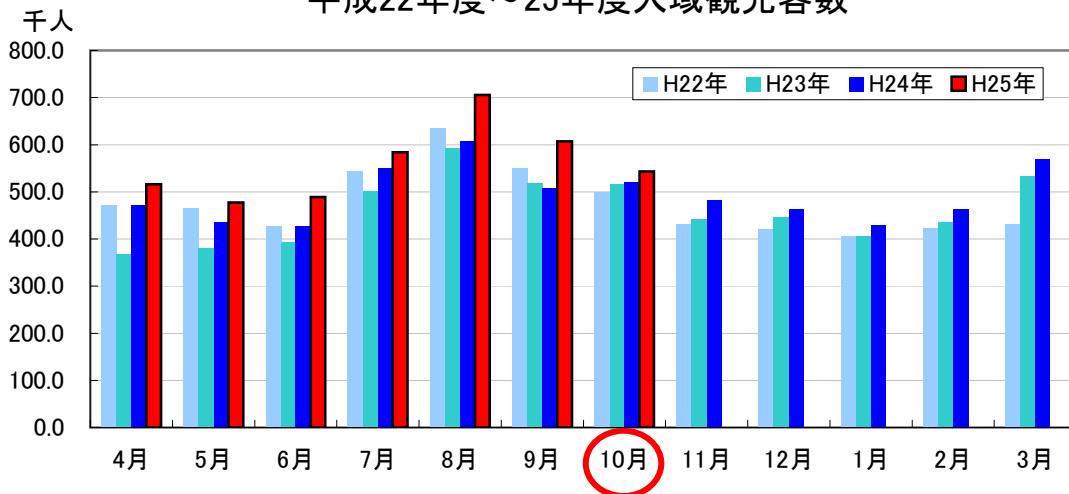
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	89.4%
外国客	57,800 人	31,500 人	+ 26,300人	+ 83.5%	10.6%
合計	543,000 人	519,700 人	+ 23,300人	+ 4.5%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	90.8%
外国客	49,200 人	25,300 人	+ 23,900人	+ 94.5%	9.2%
合計	534,400 人	513,500 人	+ 20,900人	+ 4.1%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、上旬の台風23号24号による航空便欠航に伴い、旅行キャンセルが相次ぎ、13か月ぶりに前年実績を下回った。中旬以降は大型イベントの誘客効果もあり、若干持ち直した。

11月は、国内旅行はTDR、スカイツリーの誘客効果で東京方面、式年遷宮の山陰・東海方面の人气が継続しているが、沖縄旅行も関西方面からの入込を中心に好調に推移していく見込み。

外国客 入域状況

10月は、台風による航空便欠航、クルーズ船寄港キャンセルがあったが、韓国、香港を中心に安定して推移した。3連休中のボイジャー等のクルーズ船寄港により欧米人観光客が増加。

11月以降、オフシーズンではあるが、台湾、香港からの入込については堅調に推移し、釜山那覇路線が就航する韓国については、これまで以上に増加することが期待できる。また、中国人向けクルーズ船の寄港が計画されていることから、中国人観光客入込の回復が期待できる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	252,400 人	259,200 人	△ 6,800人	△ 2.6%	52.0%
関西方面	90,000 人	83,100 人	+ 6,900人	+ 8.3%	18.5%
福岡方面	57,100 人	58,100 人	△ 1,000人	△ 1.7%	11.8%
名古屋	36,900 人	38,900 人	△ 2,000人	△ 5.1%	7.6%
その他	48,800 人	48,900 人	△ 100人	△ 0.2%	10.1%
合計	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	100.0%

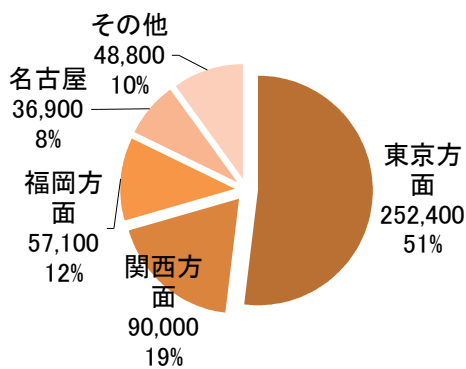
※国内海路客 1,600人を含む(鹿児島:1,600人)

外国客 国籍別入域状況

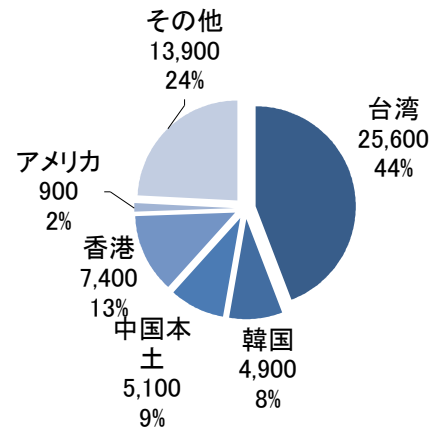
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	25,600 人	25,600 人	15,800 人	+ 9,800人	+62.0%	44.3%
韓国	4,900 人	4,900 人	2,300 人	+ 2,600人	+113.0%	8.5%
中国本土	3,300 人	5,100 人	2,900 人	+ 2,200人	+75.9%	8.8%
香港	7,400 人	7,400 人	3,400 人	+ 4,000人	+117.6%	12.8%
アメリカ	900 人	900 人	500 人	+ 400人	+80.0%	1.6%
その他	7,100 人	13,900 人	6,600 人	+ 7,300人	+110.6%	24.0%
合計	49,200 人	57,800 人	31,500 人	+ 26,300人	+83.5%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	17,900 人	17,900 人	+101.1%	48.0%	7,700 人	7,700 人	+11.6%	37.6%
韓国	4,900 人	4,900 人	+113.0%	13.1%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,300 人	3,300 人	+266.7%	8.8%	0 人	1,800 人	△10.0%	8.8%
香港	7,400 人	7,400 人	+138.7%	19.8%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.3%	400 人	400 人	+300.0%	2.0%
その他	3,300 人	3,300 人	+83.3%	8.8%	3,800 人	10,600 人	+120.8%	51.7%
合計	37,300 人	37,300 人	+114.4%	100.0%	11,900 人	20,500 人	+45.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、台風の影響、また、前年就航したエアアジア・ジャパン(新社名:バニラ・エア)の成田那覇路線が運休したことにより、若干の減となった。
11月以降、航空提供座席の拡充は落ち着きつつあるものの、修学旅行シーズンということもあり、全体として旅行商品の販売状況は好調であるため、前年並みとなる見込み。

大阪

10月は、台風の影響を受けたものの、伊丹路線の増便、LCCの関西路線が好調を維持しており、中旬の大型イベント効果で追い上げ、方面別では唯一の増加となった。
11月以降、航空提供座席は縮小傾向にあるものの、旅行商品の予約状況は概ね好調であり、さらに10月の旅行キャンセル分を低価格商品販売でカバーする動きも見られ、前年以上に推移する見込み。

福岡

10月は、3連休のあった中旬、九州ブロックPTA大会が開催された下旬の入込は好調であったが、他方面同様、台風による航空便欠航、それに伴う旅行キャンセルが相次ぎ前年を下回った。
11月は、団体旅行、パッケージ旅行等の旅行商品は前年以上の予約状況となっており、好調に推移することが期待できる。

名古屋

10月は、上旬の台風の影響を中旬3連休の好調さでもカバーできず、前年実績を下回る結果となった。石垣島及び周辺離島の周遊ツアーが依然として中高年層に人気である。
11月は、現時点の予約状況では好調を維持しており、さらに12月の3連休及び年末年始も好調で、ファミリー層を中心に前年以上に推移していく見込み。

台湾

10月は、オフシーズンの上、台風により航空便欠航やクルーズ船寄港のキャンセルもあったが、ピーチ・アビエーションの就航効果がキャンセル分を上回り、空路客を中心に前年を上回る結果となった。
11月以降、復興航空の台北出発時間が早朝となることから、入込に影響が出る懸念されるものの、安定した旅行需要に支えられ、春節時期まで堅調に推移する見込み。

韓国

10月は、依然として現地では汚染水流出等による食料品の安全問題の懸念が続き訪日旅行需要は鈍化しているが、訪沖旅行への影響は少なく、台風による航空便欠航はあったものの好調に推移した。
11月の釜山那覇路線の就航効果、また、12月以降の冬場の安定した訪沖旅行需要に支えられ、今後も安定して推移する見込み。

中国本土・北京

10月は、国慶節期間中のチャーター便もなく、また、オフシーズンのため北京路線の再開後高かった搭乗率が落ち着きをみせている。
11月以降、前年運休の反動により、しばらくは前年を上回る入込となる見込み。現地事務所では、中国内陸部、ロシア極東部へのプロモーションも実施しており、沖縄の知名度アップを図る予定。

中国本土・上海

10月は、国慶節期間中の増便及び使用機材大型化により、個人旅行客を中心に好調に推移した。空路客は、尖閣関連の影響が出る前の水準近くに回復している。
11月から3月まで計7回の上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)の寄港が予定されており、団体旅行客を中心に前年実績を上回る見込み。

香港

10月は、団体旅行、個人旅行ともに好調に推移した。離島に関する問い合わせも増加している模様。団体旅行については、塩作り体験やガラス作り体験など、体験メニューを組み入れた旅行商品が人気がある様子。
11月、12月についても好調を維持しており、オフシーズンの落ち込みは例年より小幅になると予想される。

平成25年（2013）11月 入域観光客数概況

11月の観光客数は、51万3,600人
対前年（H24）同月比 +3万500人、+6.3%
～伸びが鈍化するも、11月の過去最高を更新～

入域状況

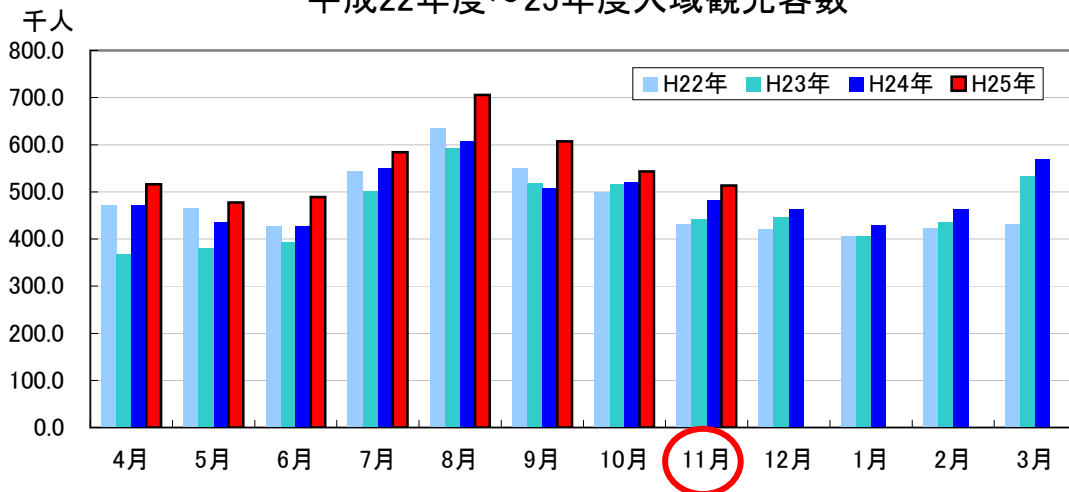
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	93.5%
外国客	33,500 人	14,300 人	+ 19,200人	+ 134.3%	6.5%
合計	513,600 人	483,100 人	+ 30,500人	+ 6.3%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	93.8%
外国客	31,600 人	13,300 人	+ 18,300人	+ 137.6%	6.2%
合計	511,700 人	482,100 人	+ 29,600人	+ 6.1%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、前年下半期から続いた航空路線の拡充が一段落したが、引き続き景況感が上向き、旅行市場全体が活況なことから、前年を上回った。

12月は、民間企業賞与の増加による旅行需要が海外・国内問わず高まっており、沖縄行きの旅行商品及び航空便予約状況も好調で、前年を上回る見込み。

外国客 入域状況

11月は、国内客同様入込が落ち着く時期にあるが、冬期の旅行需要が高い韓国、旅行需要が安定している香港からの入込を中心に好調に推移した。また、上海発クルーズ船が寄港し、中国人観光客も増加した。

12月は、冬期の旅行シーズンを迎える韓国からの入込が本格化すること、また、3月まで定期的に中国人向けクルーズ船寄港が予定されていることから、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	239,500 人	235,100 人	+ 4,400人	+ 1.9%	49.9%
関西方面	85,700 人	75,200 人	+ 10,500人	+ 14.0%	17.9%
福岡方面	63,800 人	66,900 人	△ 3,100人	△ 4.6%	13.3%
名古屋	39,100 人	37,200 人	+ 1,900人	+ 5.1%	8.1%
その他	52,000 人	54,400 人	△ 2,400人	△ 4.4%	10.8%
合計	480,100 人	468,800 人	+ 11,300人	+ 2.4%	100.0%

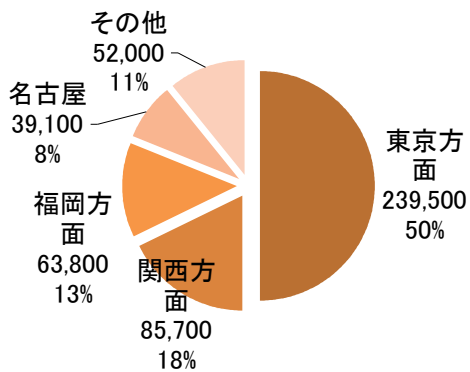
※国内海路客 2,700人を含む(東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,500人)

外国客 国籍別入域状況

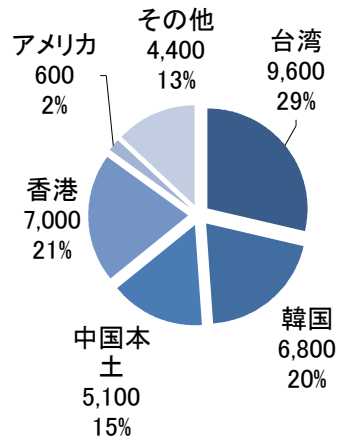
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	9,600 人	9,600 人	5,100 人	+ 4,500人	+88.2%	28.7%
韓国	6,800 人	6,800 人	2,600 人	+ 4,200人	+161.5%	20.3%
中国本土	4,600 人	5,100 人	700 人	+ 4,400人	+628.6%	15.2%
香港	7,000 人	7,000 人	2,000 人	+ 5,000人	+250.0%	20.9%
アメリカ	600 人	600 人	400 人	+ 200人	+50.0%	1.8%
その他	3,000 人	4,400 人	3,500 人	+ 900人	+25.7%	13.1%
合計	31,600 人	33,500 人	14,300 人	+ 19,200人	+134.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	9,600 人	9,600 人	+88.2%	32.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	6,700 人	6,700 人	+157.7%	22.6%	100 人	100 人	-	2.6%
中国本土	2,600 人	2,600 人	+333.3%	8.8%	2,000 人	2,500 人	+2400.0%	64.1%
香港	7,000 人	7,000 人	+250.0%	23.6%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+100.0%	2.0%	0 人	0 人	皆減	0.0%
その他	3,000 人	3,100 人	+158.3%	10.5%	0 人	1,300 人	△43.5%	33.3%
合計	29,500 人	29,600 人	+150.8%	100.0%	2,100 人	3,900 人	+56.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、団体旅行、web商品利用中心の個人旅行ともに好調に推移した。10月から引き続き修学旅行、MICEのシーズンであることから、特に団体旅行は好調である。12月は、羽田-石垣路線の増便、バニラ・エアの成田路線就航(再開)により好調に推移する見込み。現時点で、年末年始の航空便予約状況は前年を上回っており、民間企業の賞与増も追い風となっている様子。

大阪

11月は、旅行商品の販売状況も良く、那覇マラソン(12月1日)参加者の入込もあったため、好調に推移した。年末年始の休暇が長く、入込時期が分散する傾向にあるが、全体として旅行商品の受注は前年以上に増えており、また、年末年始以外についても、2月までは好調に推移する見込み。

福岡

11月は、全九州小学生バドミントン大会が沖縄で開催されたものの、全日空の利用機材小型化の影響を受け、月全体で前年を下回った。ビジネス需要は増加している様子。12月の3連休や年末年始の旅行商品・航空便の予約状況は前年以上となっており、好調に推移する見込み。

名古屋

11月は、提供座席の拡充傾向が落ち着き、入込は微増となった。下旬にANAが企画したB787を利用したツアーが人気であった。12月は、下旬の3連休及び年末年始は航空便予約状況が好調で、特に年末年始には中部-石垣路線の機材大型化が予定されており、ファミリー層を中心に前年以上の入込となる見込み。星野リゾートを利用したツアーが人気。

台湾

11月は、スタークルーズの運航がなく、夏期に比べて入込が落ち込んでいるが、航空路線拡充の影響により前年以上の結果となった。スポーツイベント参加やリゾートウェディングが好調。12月以降、高雄-那覇間のチャーター便が予定されており、春節時期を中心に好調に推移する見込み。高額商品も販売され、高品質の沖縄観光商品の需要が高まっている。

韓国

11月は、アジアナ航空の機材大型化継続及び釜山路線の就航に加え、航空運賃が低価格で販売されたことから、個人旅行を中心に好調に推移した。12月以降、冬期＝沖縄ゴルフのイメージが定着し、価格帯も様々なゴルフ商品が人気。12月末から2月中旬の冬休み時期においては、前年に比べてチャーター便も増加することから、前年以上に推移する見込み。

中国本土・北京

11月は、例年入込が落ち着く時期ではあるが、前年不調の反動で大幅に増加し、平成23年の沖縄数次ビザ発給の開始直後の水準にまで回復している。12月以降も、日中間の関係に大きく変化がなければ、しばらく安定して前年比増が続く見込み。

中国本土・上海

11月は、上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)が2度寄港、前年不調の反動もあり大幅な増加となった。12月以降も上海発のクルーズ船寄港が予定されており、クルーズ客を中心とした団体観光が増加する見込み。また、現時点での春節時期の航空便予約状況も好調である様子。

香港

11月は、紅葉シーズンのため沖縄以外の地域に注目が集まったが、前年に比べて提供座席が増えたため落ち込みは小幅で推移した。12月もオフシーズンではあるが、円安による訪日旅行人気の継続、また、航空会社の格安航空券販売により需要が喚起され、順調に推移する見込み。

平成25年（2013）12月 入域観光客数概況

12月の観光客数は、51万5,500人
対前年（H24）同月比 +5万2,100人、+11.2%
～暦年で過去最高の観光客数を記録～

入域状況

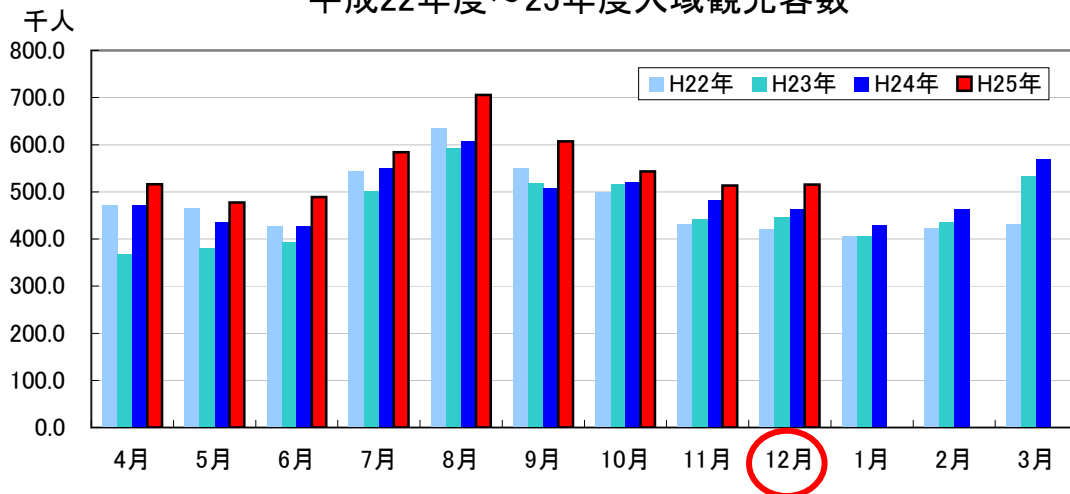
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	93.0%
外国客	36,200 人	17,100 人	+ 19,100人	+ 111.7%	7.0%
合計	515,500 人	463,400 人	+ 52,100人	+ 11.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	93.5%
外国客	33,500 人	16,400 人	+ 17,100人	+ 104.3%	6.5%
合計	512,800 人	462,700 人	+ 50,100人	+ 10.8%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、民間企業の賞与増に加え、年末年始の日並びの良さから沖縄への旅行需要も伸び、個人旅行者を中心に好調に推移した。

1月以降、しばらくは消費増税前の大型家電・家具等の駆け込み需要増により旅行手控えは懸念されるものの、現時点では旅行会社及び航空会社の予約状況は前年並みとみられる。

外国客 入域状況

12月は、冬期の旅行シーズンを迎えた韓国を中心に、重点市場からは安定した入込があり、前年を大きく上回った。

1月以降、引き続き旅行シーズンのピークを迎える韓国に加え、春節を迎える台湾、中国、香港からの入込も増加し、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	244,100 人	223,700 人	+ 20,400人	+ 9.1%	50.9%
関西方面	88,100 人	77,200 人	+ 10,900人	+ 14.1%	18.4%
福岡方面	58,100 人	59,100 人	△ 1,000人	△ 1.7%	12.1%
名古屋	38,500 人	36,900 人	+ 1,600人	+ 4.3%	8.0%
その他	50,500 人	49,400 人	+ 1,100人	+ 2.2%	10.5%
合計	479,300 人	446,300 人	+ 33,000人	+ 7.4%	100.0%

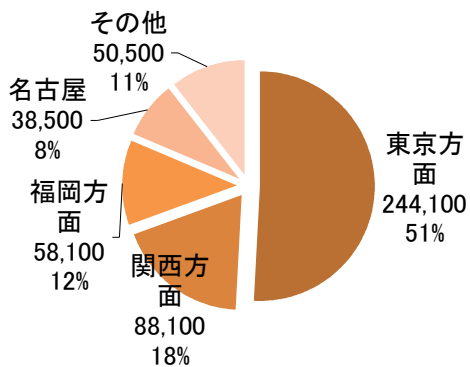
※国内海路客 3,600人を含む(東京:500人、鹿児島:2,300人、その他:800人)

外国客 国籍別入域状況

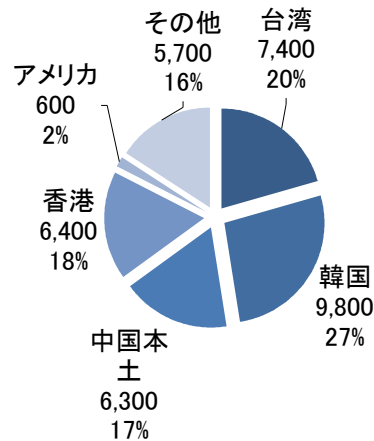
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	7,400 人	7,400 人	5,100 人	+ 2,300人	+45.1%	20.4%
韓国	9,800 人	9,800 人	5,500 人	+ 4,300人	+78.2%	27.1%
中国本土	5,800 人	6,300 人	800 人	+ 5,500人	+687.5%	17.4%
香港	6,400 人	6,400 人	3,000 人	+ 3,400人	+113.3%	17.7%
アメリカ	600 人	600 人	400 人	+ 200人	+50.0%	1.7%
その他	3,500 人	5,700 人	2,300 人	+ 3,400人	+147.8%	15.7%
合計	33,500 人	36,200 人	17,100 人	+ 19,100人	+111.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	7,400 人	7,400 人	+45.1%	24.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	9,700 人	9,700 人	+94.0%	32.0%	100 人	100 人	△80.0%	1.7%
中国本土	2,600 人	2,600 人	+225.0%	8.6%	3,200 人	3,700 人	皆増	62.7%
香港	6,400 人	6,400 人	+113.3%	21.1%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+50.0%	2.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,500 人	3,600 人	+111.8%	11.9%	0 人	2,100 人	+250.0%	35.6%
合計	30,200 人	30,300 人	+89.4%	100.0%	3,300 人	5,900 人	+436.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、羽田-石垣路線の増便、バニラ・エアの成田路線就航(再開)により、中旬以降入込が増加し、好調に推移した。

1月は、3連休以降、一部航空会社の予約状況が前年を下回っており、沖縄旅行の需要は鈍化傾向にあるが、北部の桜祭りや旅行会社の独自イベントの誘客効果を期待したい。

大阪

12月は、中旬まで前年並みで推移したものの、年末年始に集中して入込があり、結果として好調に推移した。

1月は、低価格の旅行商品販売が好調なこともあり、前年以上の入込が期待できる。

福岡

12月は、前年同月に比べ機材小型化により提供座席が減ったものの、中旬以降に前年以上の入込があり、個人旅行客を中心に好調に推移した。

1月以降、ほとんどの旅行社で団体旅行を中心に販売状況が鈍化しており、各社とも対策を講じている。

名古屋

12月は、年末年始を直前に控えた中旬以外で入込状況がよく、家族旅行を中心に好調に推移した。

1月は、現時点で前年並みの入込とみられるが、北部の桜祭りや2月のプロ野球キャンプ、ホエールウォッチングに関心が高まっており、今後に期待。

台湾

12月は、夏場の入込状況との差が例年以上に開いているものの、航空路線拡充の影響が続いており、前年を上回った。

1月は、団体旅行は少なく、個人旅行客が中心となる。春節には各地(台北・高雄・台中)からチャーター便が就航するため、前年以上の入込が期待できる。

韓国

12月は、前年と比較してチャーター便が増加し、ゴルフ旅行及び家族旅行客を中心に好調に推移した。

1月から2月にかけて冬の旅行シーズンがピークを迎え、定期路線の提供座席増やチャーター便増を予定していることから、前年以上に推移する見込み。

中国本土・北京

12月は、先月同様、前年不調の反動により大幅に増加した。

1月以降、春節時期のチャーター便計画は中止になったものの、春節は例年旅行需要が高いことから、好調に推移していく見込み。

中国本土・上海

12月は、上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)が2度寄港し、大幅な増加となった。

1月以降も上海発のクルーズ船寄港が予定されており、クルーズ客を中心とした団体観光が増加する見込み。1月31日の吉祥航空の上海-那覇路線就航も、今後の入込増へ向け期待できる。

香港

12月のオフシーズンでも、入込の落ち込みは例年より小幅となっており、好調に推移した。タイの政情不安により、旅行先をタイから日本へ変更するケースも見られる。

1月は、航空会社及び旅行会社が低価格商品で需要を喚起しており、安定して推移する見込み。

平成26年（2014）1月 入域観光客数概況

1月の観光客数は、49万5,100人
対前年（H25）同月比 +6万5,400人、+15.2%
～外国客の年度累計が50万人を突破～

入域状況

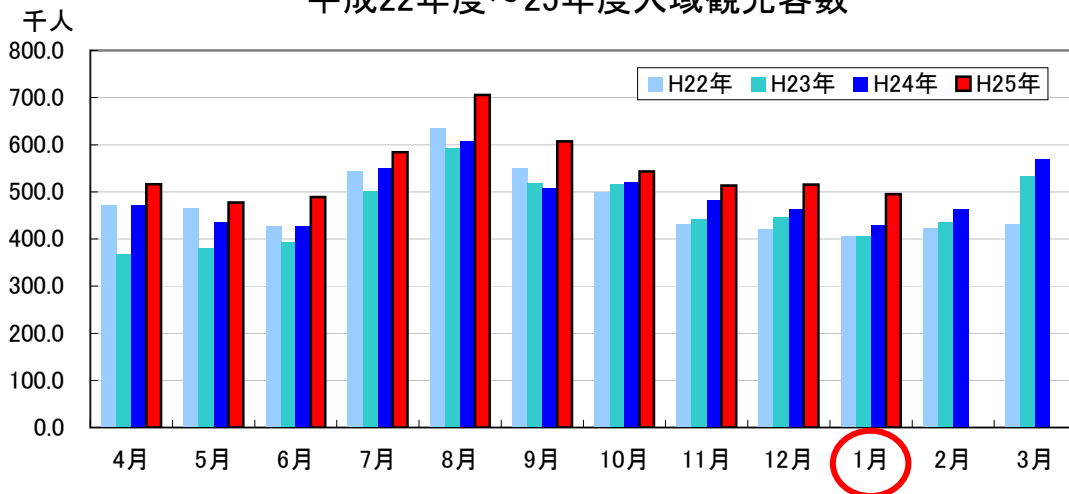
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	90.3%
外国客	48,100 人	15,600 人	+ 32,500人	+ 208.3%	9.7%
合計	495,100 人	429,700 人	+ 65,400人	+ 15.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	90.9%
外国客	44,500 人	15,300 人	+ 29,200人	+ 190.8%	9.1%
合計	491,500 人	429,400 人	+ 62,100人	+ 14.5%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、年末から年始にかけての航空便提供座席の増加に加え、下旬の旅行会社主催のイベントの誘客効果もあり、好調に推移した。

2月は、関東～関西地方の天候不良による航空便欠航の影響により旅行キャンセルが懸念されるものの、プロ野球キャンプや学生の春休みで一定の旅行需要があり、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

1月は、春節を迎えた台湾、香港、中国の主要方面からの旅行需要が高く、好調に推移した。また、旅行シーズンのピークを迎える韓国は、単月で初めて1万人を超える入込となった。

2月は、前年春節があったため伸び率は鈍化するものの、航空路線拡充の影響により沖縄旅行の需要は高く、前年以上に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	226,700 人	206,300 人	+ 20,400人	+ 9.9%	50.7%
関西方面	81,400 人	71,600 人	+ 9,800人	+ 13.7%	18.2%
福岡方面	55,200 人	53,000 人	+ 2,200人	+ 4.2%	12.3%
名古屋	35,700 人	36,800 人	△ 1,100人	△ 3.0%	8.0%
その他	48,000 人	46,400 人	+ 1,600人	+ 3.4%	10.7%
合計	447,000 人	414,100 人	+ 32,900人	+ 7.9%	100.0%

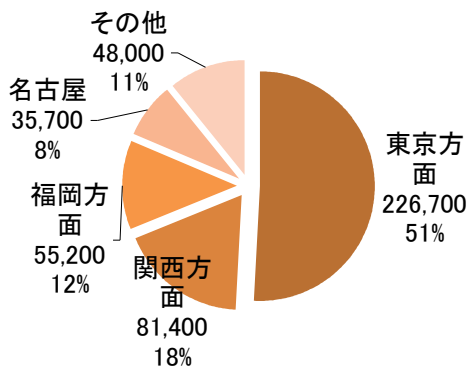
※国内海路客 2,900人を含む(鹿児島:2,900人)

外国客 国籍別入域状況

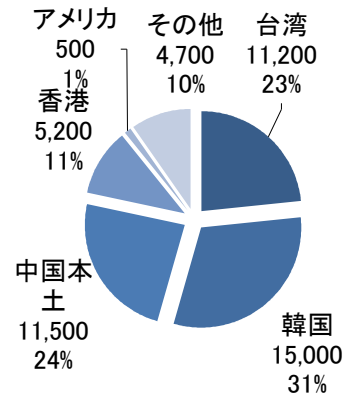
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	11,200 人	11,200 人	4,100 人	+ 7,100人	+173.2%	23.3%
韓国	15,000 人	15,000 人	7,900 人	+ 7,100人	+89.9%	31.2%
中国本土	10,500 人	11,500 人	500 人	+ 11,000人	+2200.0%	23.9%
香港	5,200 人	5,200 人	1,800 人	+ 3,400人	+188.9%	10.8%
アメリカ	500 人	500 人	300 人	+ 200人	+66.7%	1.0%
その他	2,100 人	4,700 人	1,000 人	+ 3,700人	+370.0%	9.8%
合計	44,500 人	48,100 人	15,600 人	+ 32,500人	+208.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	11,200 人	11,200 人	+173.2%	29.8%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	14,900 人	14,900 人	+88.6%	39.6%	100 人	100 人	皆増	1.0%
中国本土	3,800 人	3,800 人	+660.0%	10.1%	6,700 人	7,700 人	皆増	73.3%
香港	5,200 人	5,200 人	+188.9%	13.8%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	500 人	500 人	+66.7%	1.3%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,000 人	2,000 人	+185.7%	5.3%	100 人	2,700 人	+800.0%	25.7%
合計	37,600 人	37,600 人	+145.8%	100.0%	6,900 人	10,500 人	+3400.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、年始の提供座席拡充の効果に加え、下旬の旅行会社主催イベントに伴うツアーの販売も好調で、前年を上回った。
2月は、天候不良による航空便欠航の影響が懸念されるものの、プロ野球キャンプ見学や修学旅行、卒業旅行と一定の需要があり、好調に推移する見込み。

大阪

1月は、年始の日並びの良さも影響し、石垣直行便の利用客を中心に全体として好調に推移した。
2月以降、プロ野球キャンプやイベント等の誘客効果により、好調に推移する見込み。石垣島と周辺離島のパッケージ商品の人気が出てきている模様。

福岡

1月は、機材小型化の影響により提供座席数が前年に比べ減っているものの、年始を中心に好調に推移した。
2月は、各旅行会社ともに販売状況が鈍化しているため、低価格商品を販売しているが、現時点では伸び悩んでいる。ビジネス需要が高く、航空券単体の販売状況は好調である様子。

名古屋

1月は、高額な旅行商品に人気が集まったが、月全体を通して入込数は減少した。当地の好調な経済状況を背景に、海外旅行にシフトしている可能性がある。
2月は、プロ野球キャンプ応援ツアーやホエールウォッチングへの関心が高まっているものの、石垣直行便就航から1年が経ち提供座席の拡充に大きな変化がないことから、前年並みに推移するとみられる。

台湾

1月は、引き続き訪日旅行が人気で、春節時期に各地(台北・高雄・台中)からチャーター便が就航した影響により、好調に推移した。
2月は、春節後はやや落ち込むものの、台北-那覇路線の増便及び現地の3連休に合わせての旅行商品の販売により引き続き好調に推移する見込み。

韓国

1月は、ゴルフ旅行の安定した需要に加え、家族旅行やインセンティブ旅行等も好調で、安定して増加。単月で初めて1万人を超える入込。
2月は、定期路線やチャーター便の拡充による誘客効果に加え、プロ野球キャンプのツアー企画など安定した需要もあり、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

1月は、春節時期のチャーター便就航はなかったものの、円安や春節時期の旅行需要に支えられ、大幅に増加した。
2月は、春節後の旅行需要の落ち込みがあるものの、前年不調の反動により好調に推移する見込み。旅行形態が団体旅行から個人旅行へ変化し、沖縄旅行も個人旅行が増加している模様。

中国本土・上海

1月は、上海・香港発のクルーズ船寄港が4度、春節時期の航空路線の増便、機材大型化の効果で好調に推移した。
2月は、春節後の旅行動向は鈍くなっているものの、吉祥航空の就航及びクルーズ船寄港により、前年以上に増加する見込み。

香港

1月は、冬場の需要喚起のプロモーションを行った効果もあり、団体旅行及び個人旅行ともに好調に推移した。
2月は、春節後の旅行需要は落ち着くが、低価格商品の販売及びプロモーションが継続され、夏場にかけて堅調に推移していく見込み。現地のウェディングイベントに出展が予定されており、今後のリゾートウェディング需要拡大に期待が持てる。

平成26年（2014）2月 入域観光客数概況

2月の観光客数は、50万3,100人
対前年（H25）同月比 +3万9,900人、+8.6%
～2月の過去最高を記録、17か月連続で前年同月を上回る～

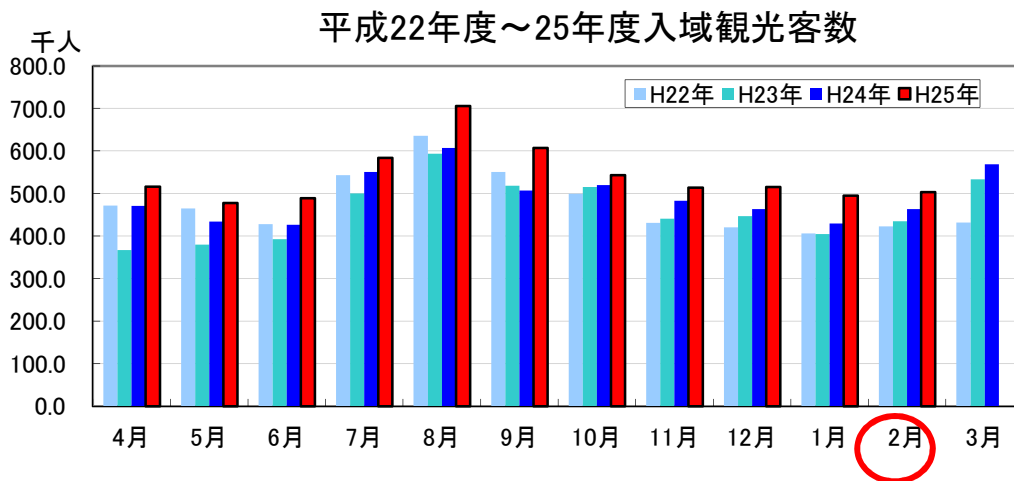
入域状況

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	91.2%
外国客	44,300 人	24,500 人	+ 19,800人	+ 80.8%	8.8%
合計	503,100 人	463,200 人	+ 39,900人	+ 8.6%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	91.7%
外国客	41,300 人	23,700 人	+ 17,600人	+ 74.3%	8.3%
合計	500,100 人	462,400 人	+ 37,700人	+ 8.2%	100.0%



国内客 入域状況

2月は、上旬・中旬で2度の大雪に伴う航空便欠航の影響により、一部方面では入込が落ち込んだものの、下旬には回復し、月全体では前年並みとなった。
3月は、春休みの旅行需要に支えられて、個人旅行、団体旅行ともに順調に販売されており、一部方面を除いては引き続き好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

2月は、前年春節の日並びの影響で伸び率が落ち着いたものの、チャーター便や臨時便が増加したことにより、好調に推移した。
3月以降も航空路線の拡充が予定されていること、また、拡充に伴い運賃や旅行商品価格が低下して需要が喚起されていることから、前年以上に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	227,200 人	220,200 人	+ 7,000人	+ 3.2%	49.5%
関西方面	87,500 人	75,600 人	+ 11,900人	+ 15.7%	19.1%
福岡方面	56,900 人	57,200 人	△ 300人	△ 0.5%	12.4%
名古屋	38,900 人	39,200 人	△ 300人	△ 0.8%	8.5%
その他	48,300 人	46,500 人	+ 1,800人	+ 3.9%	10.5%
合計	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	100.0%

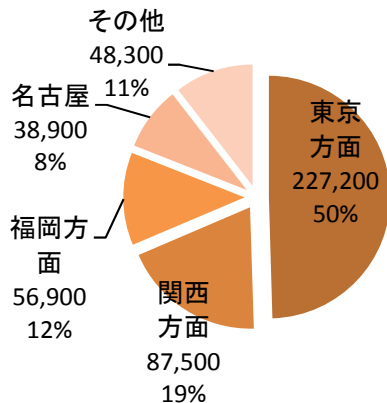
※国内海路客 2,300人を含む(関西:100人、鹿児島:1,600人、その他:600人)

外国客 国籍別入域状況

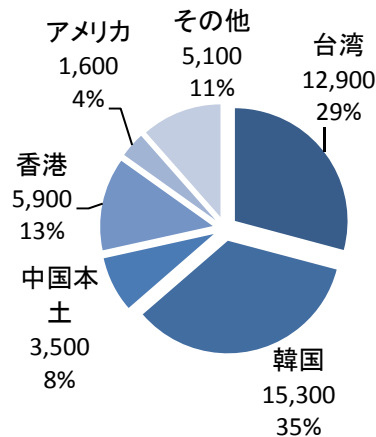
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	12,900 人	12,900 人	8,200 人	+ 4,700人	+57.3%	29.1%
韓国	15,300 人	15,300 人	8,600 人	+ 6,700人	+77.9%	34.5%
中国本土	3,500 人	3,500 人	1,300 人	+ 2,200人	+169.2%	7.9%
香港	5,900 人	5,900 人	4,000 人	+ 1,900人	+47.5%	13.3%
アメリカ	1,400 人	1,600 人	700 人	+ 900人	+128.6%	3.6%
その他	2,300 人	5,100 人	1,700 人	+ 3,400人	+200.0%	11.5%
合計	41,300 人	44,300 人	24,500 人	+ 19,800人	+80.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	12,900 人	12,900 人	+57.3%	32.6%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	15,300 人	15,300 人	+77.9%	38.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,500 人	3,500 人	+169.2%	8.8%	0 人	0 人	-	0.0%
香港	5,900 人	5,900 人	+47.5%	14.9%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	400 人	400 人	+33.3%	1.0%	1,000 人	1,200 人	+200.0%	25.5%
その他	1,600 人	1,600 人	+77.8%	4.0%	700 人	3,500 人	+337.5%	74.5%
合計	39,600 人	39,600 人	+70.0%	100.0%	1,700 人	4,700 人	+291.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、2度の週末の大雪に伴う航空便欠航により旅行キャンセルが出たものの、プロ野球キャンプの応援や団体旅行を中心に全体では前年をわずかに上回った。
3月は、春休み関連のツアーや団体旅行商品が順調に販売されているのに加え、石垣島をはじめとする離島路線の予約状況も好調なため、前年以上に推移する見込み。

大阪

2月は、大雪に伴い航空便に一部欠航や遅延があったものの、入込には大きく影響せず、前年並みとなった。LCC利用の旅行商品はあるものの利便性がネックとなり、通常の旅行商品(FSC利用)の販売が好調。
3月はイベント等の誘客効果、4月以降は伊丹路線の増便や一部旅行会社がキャンペーンを強化していることから、好調に推移する見込み。

福岡

2月は、1月まで低迷していたweb商品や航空券単体予約、旅行商品の申し込みが直前に増えたものの、前年並みとなった。
3月以降は、添乗員付きの旅行商品を中心に、チャーター便の企画商品の販売状況もよく、好調に推移する見込み。3月後半から全日空の福岡-石垣路線が例年より早く再開するため、八重山方面への入込も期待できる。

名古屋

2月は、2度の大雪に伴う航空便欠航が旅行キャンセルにつながり、前年より若干の減となった。
3月は、石垣島及び周辺離島を回るツアーが好調となっているものの、全体としては販売状況は前年並みに推移する見込み。

台湾

2月は、前年と比較して航空路線が拡充されたことに加え、安価な旅行商品が販売されていることもあり、好調に推移した。
3月以降、例年以上にインセンティブツアーが好調であること、また、台北-石垣のチャーター便がひと月早く再開することから、前年以上に推移する見込み。

韓国

2月は、先月同様に航空路線が拡充した影響により、前年実績を上回った。新規航空会社の参入で旅行費用が下がっており、家族旅行や学生旅行、インセンティブツアーが好調。
3月も引き続き、航空運賃値下げによる旅行需要の増加と安定したゴルフ旅行需要に支えられ、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

2月は、円安傾向が継続しているのに加えて、春節後半の旅行需要に支えられ、好調に推移した。春節時期には東京と沖縄を組み合わせた旅行商品も販売された。
3月は、下旬から4月上旬の西安発の沖縄ツアーが順調に販売されている模様。この時期は、旅行動向は鈍くなるものの、4月以降は夏に向けて徐々に回復していく見込み。

中国本土・上海

2月は、1月末からの吉祥航空の就航効果により前年を上回った。吉祥航空就航により、新たに沖縄旅行商品を扱う旅行会社が出てきている。
3月は、春節後の旅行需要が落ち込んではいないものの、中国人向けクルーズ船の寄港が予定されていることから、海路客を中心に好調に推移する見込み。

香港

2月は、個人旅行、団体旅行ともに好調で、前年を上回った。大手旅行会社では多数のツアー商品を販売するなど、独自に需要喚起のキャンペーンを行っている。
3月以降、香港航空が増便(ダブルデイリー)となるため、現地だけでなく中国南部・東南アジア方面からの送客も見込まれ、春・夏の旅行シーズンに向け好調に推移する見込み。

平成26年（2014）3月 入域観光客数概況

3月の観光客数は、63万200人
対前年（H25）同月比 +6万1,300人、+10.8%
～3月初の60万人超、18か月連続で前年同月を上回る～

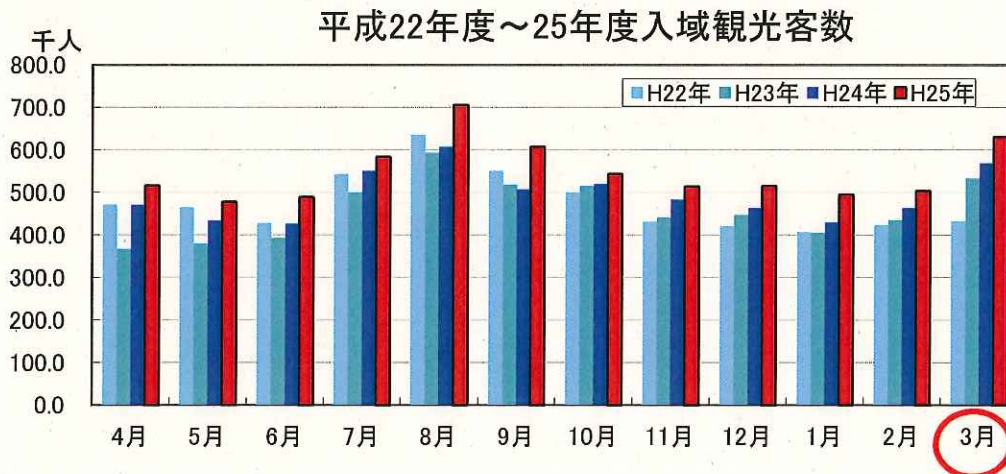
入域状況

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	581,500 人	544,300 人	+ 37,200人	+ 6.8%	92.3%
外国客	48,700 人	24,600 人	+ 24,100人	+ 98.0%	7.7%
合計	630,200 人	568,900 人	+ 61,300人	+ 10.8%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	581,500 人	544,300 人	+ 37,200人	+ 6.8%	92.7%
外国客	46,100 人	22,700 人	+ 23,400人	+ 103.1%	7.3%
合計	627,600 人	567,000 人	+ 60,600人	+ 10.7%	100.0%



国内客 入域状況

3月は、春休みシーズンによる旅行需要の増大、各種イベントによる誘客、前年同月よりも拡充したLCCや離島路線の好調もあり、対前年比を上回った。

4月は、消費税増税の影響が予想されるものの、航空路線の拡充が予定されており、修学旅行や企業のインセンティブ旅行などの団体旅行を中心に前年並みを維持する見込み。

外国客 入域状況

3月は、円安の状況が続いており、香港航空や吉祥航空など航空路線の拡充から空路客が増加した。また、クルーズ船の寄港により海路客も好調に推移した。

4月は、日本の他地域との競合が予想されるものの、イースターホリディを迎える香港と、チャーター便就航とクルーズ船寄港が予定されている台湾からの入込増が期待できる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	293,500 人	272,300 人	+ 21,200人	+ 7.8%	50.5%
関西方面	111,000 人	98,900 人	+ 12,100人	+ 12.2%	19.1%
福岡方面	66,900 人	67,200 人	△ 300人	△ 0.4%	11.5%
名古屋	48,500 人	48,100 人	+ 400人	+ 0.8%	8.3%
その他	61,600 人	57,800 人	+ 3,800人	+ 6.6%	10.6%
合計	581,500 人	544,300 人	+ 37,200人	+ 6.8%	100.0%

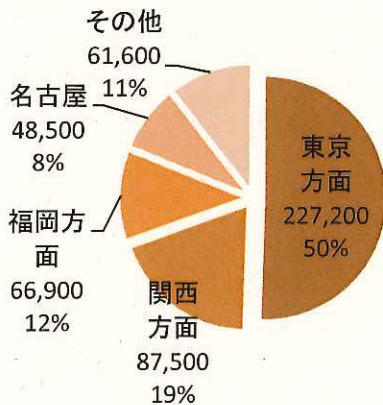
※国内海路客 3,400人を含む(鹿児島:3,200人、東京:100人、関西:100人)

外国客 国籍別入域状況

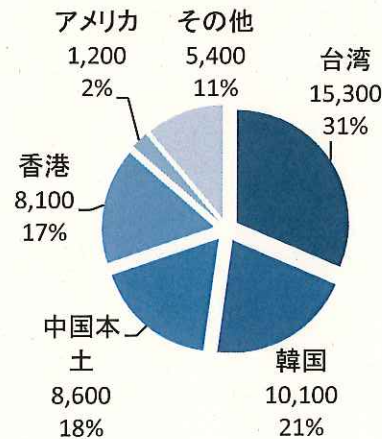
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	15,300 人	15,300 人	8,600 人	+ 6,700人	+77.9%	31.4%
韓国	10,100 人	10,100 人	5,500 人	+ 4,600人	+83.6%	20.7%
中国本土	8,100 人	8,600 人	900 人	+ 7,700人	+855.6%	17.7%
香港	8,100 人	8,100 人	5,300 人	+ 2,800人	+52.8%	16.6%
アメリカ	1,200 人	1,200 人	800 人	+ 400人	+50.0%	2.5%
その他	3,300 人	5,400 人	3,500 人	+ 1,900人	+54.3%	11.1%
合計	46,100 人	48,700 人	24,600 人	+ 24,100人	+98.0%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	15,300 人	15,300 人	+109.6%	37.6%	0 人	0 人	—	0.0%
韓国	10,100 人	10,100 人	+83.6%	24.8%	0 人	0 人	—	0.0%
中国本土	3,700 人	3,700 人	+516.7%	9.1%	4,400 人	4,900 人	+1125.0%	61.3%
香港	8,100 人	8,100 人	+52.8%	19.9%	0 人	0 人	—	0.0%
アメリカ	700 人	700 人	+75.0%	1.7%	500 人	500 人	+25.0%	6.3%
その他	2,800 人	2,800 人	+47.4%	6.9%	500 人	2,600 人	+62.5%	32.5%
合計	40,700 人	40,700 人	+93.8%	100.0%	5,400 人	8,000 人	+122.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は春休みの旅行シーズンであり、前年同月よりも拡充したLCCの誘客効果や石垣路線の好調もあり、前年実績を上回った。

4月は、消費税増税の影響で多少伸び悩みが予想されるものの、企業のインセンティブ旅行や修学旅行が順調なことから団体旅行を中心として前年並みとなる見込み。

大阪

3月は、伊丹－那覇路線の増便や各種イベントによる誘客効果などにより、離島路線を含め沖縄への入込は全体的に好調であった。

4月は、大型連休が分散傾向にあり、4月下旬の連休はやや厳しく、5月初旬の連休は好調であることから平年並みとなる見込み。

福岡

3月は、web商品の販売はまずまずだったものの、パンフレット商品の苦戦が続いた上、一部日程で宿泊施設の予約が取りにくく、需要の落ち込みに影響した。

4月は、東京や旅行商品の価格帯が同じ大阪と競合し、平年並みとなる見込み。例年より早く3月末から再開した福岡－石垣路線関連商品が好調である。

名古屋

3月は、春休みの家族旅行が好調であったが、全体としては前年並みとなった。

4月は、石垣への直行便は根強い人気があるものの、全体としては前年並みで推移する見込み。体験型ツアーが好評である。

台湾

3月は、前年と比較して航空路線が拡充されたことに加え、インセンティブツアーが好調であり、前年を上回った。

4月は、チャーター便の就航やクルーズ船の寄港が予定されていることから、空路客・海路客ともに好調に推移する見込み。

韓国

3月は、供給座席増により前年を上回った。企業のインセンティブツアーや親睦旅行、若い世代の旅行が増えつつある。

4月は、5月の連休前の旅行手控えが予想されるが、引き続き路線拡充の影響により増加する見込み。

中国本土・北京

3月は、春節後旅行需要が落ち込むものの、尖閣諸島関連の影響で直行便がなかった前年同月に比べ増加した。個人・団体旅行ともに回復傾向にある。

4月初旬は本土の花見ツアーに人気が集まるが、それ以降は航空路線の予約状況が好調であり、徐々に増加する見込み。

中国本土・上海

3月は、例年春節後に旅行需要が落ち込むものの、クルーズ船の寄港により海路客が増加し、好調に推移した。

4月は、吉祥航空就航の影響が続いており、沖縄商品の取り扱いが増える見込み。5月以降はクルーズ船の寄港など夏場に向けて増加が期待できる。

香港

3月は、香港航空の増便に伴い、団体・個人旅行ともに増加し前年同月を上回った。

4月は、イースターホリデーの旅行需要が高まるのに加え、香港航空の増便に伴い低価格チケットが販売されており、特に個人旅行客を中心に好調に推移する見込み。